2024年度 町田市市民参加型事業評価
事業概要シート
行政評価シート

＜第2会場実施分＞

B－1　保健予防費　　・・・　2 ～ 17

B－2　生涯学習センター費
　　学校施設開放事業　・・・ 18 ～ 35

B－3　広報費　　・・・ 36 ～ 53

トピックス	食育の推進
公会計事業名称	保健予防費

部名	保健所	課名	保健予防課
目的	まちだ健康づくり推進プラン24-31に基づき、食を通じたまちづくりを目指す。		
事業の対象	市民、関係機関・団体		
根拠法令	食育基本法		

保健予防費の概要

◆食育推進に関すること（保健栄養に関すること）
・市民の皆様が食育を実践しやすい環境を整えるとともに、取り組みを推進しています。

◆健康づくりの推進に関すること
・市民が健康の維持・増進に取り組めるように健康づくり推進員を支援しています。

◆精神保健に関する専門相談の対応をすること
・こころの健康相談（ひきこもり・依存等）の対応を行っています。

◆歯科保健に関すること
・歯科口腔健診の実施、口腔ケアについての普及啓発を行っています。

◆難病に関する相談の対応をすること
・難病で療養中の方やそのご家族の方の日常生活に関するご相談対応を行っています。

◆母子保健に関すること
・妊婦・乳幼児の健康診査、産後ケア、母子手帳の発行等を行っています。

◆医療費助成（感染症・大気汚染等）に関すること

◆感染症の予防と対応に関すること

◆健康福祉会館の管理運営に関すること

◆予防接種に関すること

◆新型コロナウイルスワクチン接種に関すること

財源内訳・事業費・職員数

＜保健予防費の取り組みに関する事業費・財源内訳＞

単位：千円

		2021年度	2022年度	2023年度
財源内訳	町田市	3,137,692	6,903,797	6,526,395
	国、東京都	6,073,919	5,039,496	2,226,464
	その他	34,009	38, 161	34, 616
事業費総額		9,245,620	11,981,454	8,787,475

＜食育推進事業の取り組みに関する事業費・財源内訳＞

単位：千円

		2021年度	2022年度	2023年度
財源内訳	町田市	353	0	763
	国、東京都	312	637	1,000
	その他	0	0	0
事業費総額		665	637	1,763

＜2023年度の主な事業費＞

・計画策定委託料　1, 000千円
・委員謝礼　605千円
・事業協力謝礼　90千円

＜食育推進事業の取り組みに関する職員数＞

	2021年度	2022年度	2023年度
正規職員（人）	1.55	1.10	1.40
会計年度任用業務職員（人）	0.48	0.50	0.05
会計年度任用補助職員（人）	0	0	0
計	2.03	1.60	1.45

1 食育の推進の目的と現状

取組の詳細

(1)「食育」とは

「食育」とは、国が定める食育基本法において、以下のとおり定義されています。

生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けられるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てるもの

国の第4次食育推進基本計画では、日本人の健康や食を取り巻く環境の変化、社会のデジタル化などを踏まえ、以下の3点に重点をおいた取り組みを進めています。
①生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進
②持続可能な食を支える食育の推進
③「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進

町田市では、国の第4次食育推進計画や、町田市民の保健医療意識調査結果などから課題を把握し、市民一人ひとりが望ましい栄養摂取・食生活を実践することで、心と体の健康づくりにつなげていくため、食育を推進しています。

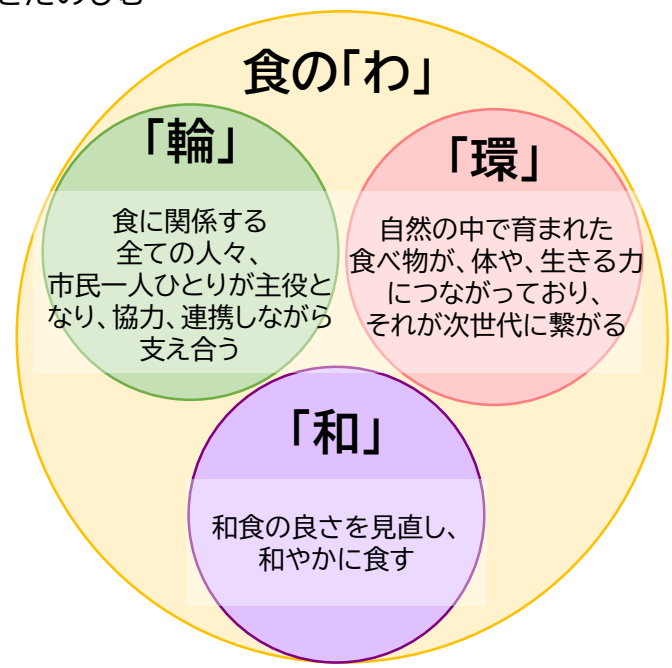
(2)市の計画

＜第2次町田市食育推進計画(2019年度～2023年度)＞
2013年度に「町田市食育推進計画」を策定し、市民が食育に関心を持ち、実践につながるように取り組んできました。
2019年度には、さらに食育を推進していくために、関係機関・団体等が連携・協働して取り組むことを目的に、「第2次町田市食育推進計画」を策定しました。

・計画の理念・目標
『食の「わ」で育むまちだの未来～感謝を持って食をたのしみ、食を通じて人や地域とのつながりが持てるまち～』

基本目標1:安全で望ましい食生活をおくる
基本目標2:食を通じて家族や地域とつながる
基本目標3:地域の恵みに感謝して食をたのしむ

＜第2次食育推進計画＞



＜食の「わ」の意味のイメージ＞

取組の詳細

＜まちだ健康づくり推進プラン24-31（2024年度～2031年度）＞
市民の総合的な健康づくりの推進のため、「まちだ健康づくり推進プラン（第5次保健医療計画）」、「第2次町田市食育推進計画」、「町田市自殺対策計画」の3つの計画を統合し、他分野とも連携して食育の推進を図っています。

・計画の目標・施策
目標：『食で健康を支えるまち』

施策1：望ましい栄養・食生活の推進
施策2：食を通じて地域とつながるための支援
施策3：食に関する環境の整備

＜まちだ健康づくり推進プラン24-31 ＞

（3）食育推進の体制

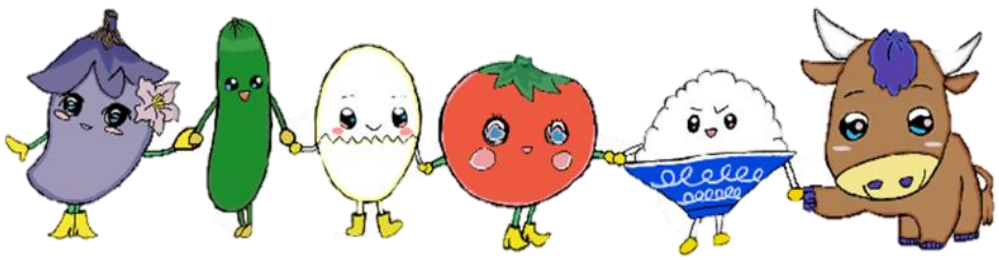
食育推進事業の進捗確認と、取り組む方向性・改善策を協議するため、「町田市食育推進委員会」及び「町田市食育推進庁内連絡会」を設置し、年2～3回程度会を開催しています。

＜食育推進のためのネットワーク＞
・町田市食育推進委員会：食や食育に関わる機関、団体及び学識経験者による委員会で、専門的な立場から市の施策に意見・助言等をしています。

・町田市食育推進庁内連絡会：食や食育に関わる市役所の各部署（14課）を構成員とする連絡会で、食育推進事業の検討を行っています。

＜食育推進キャラクター　まち☆ベジーズ＞
市民が食育に関心を持つきっかけとなるよう、「まち☆ベジーズ」を活用し、食育推進活動を行っています。
「まち☆ベジーズ」は、市内で収穫される農作物がモチーフのキャラクターで、まちだの食の「わ」を育むシンボルとして、2022年度に大学生と一緒に作成しました。
「まち☆ベジーズ」の愛称は、市民投票で選ばれました。

キャラクターの名前は左から順に、ナス子、キュウ、たまみ、とまてぃー、めっしー、もぉです。



取組の詳細

（4）市民の食育に関する現状/データ

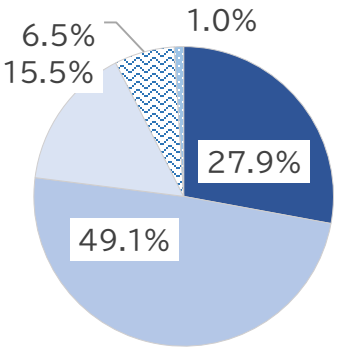
まちだ健康づくり推進プラン24-31の策定に向け18歳から79歳までの成人3,000人に対し、2022年度に市民の健康や医療に対する意識や意見等の調査を実施しました。

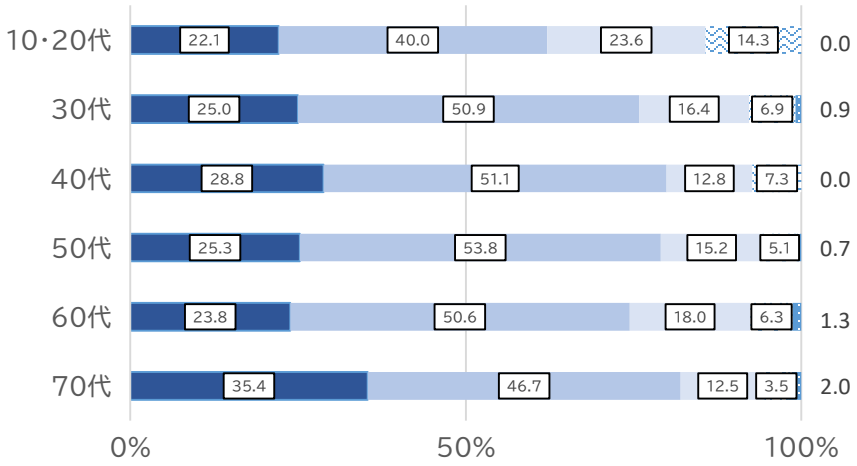
＜年代別回答割合＞

年代	回答数	構成比
10代	23	1.7%
20代	117	8.7%
30代	116	8.6%
40代	219	16.3%
50代	277	20.6%
60代	239	17.8%
70代	345	25.7%
無回答	8	0.6%

＜食育への関心＞

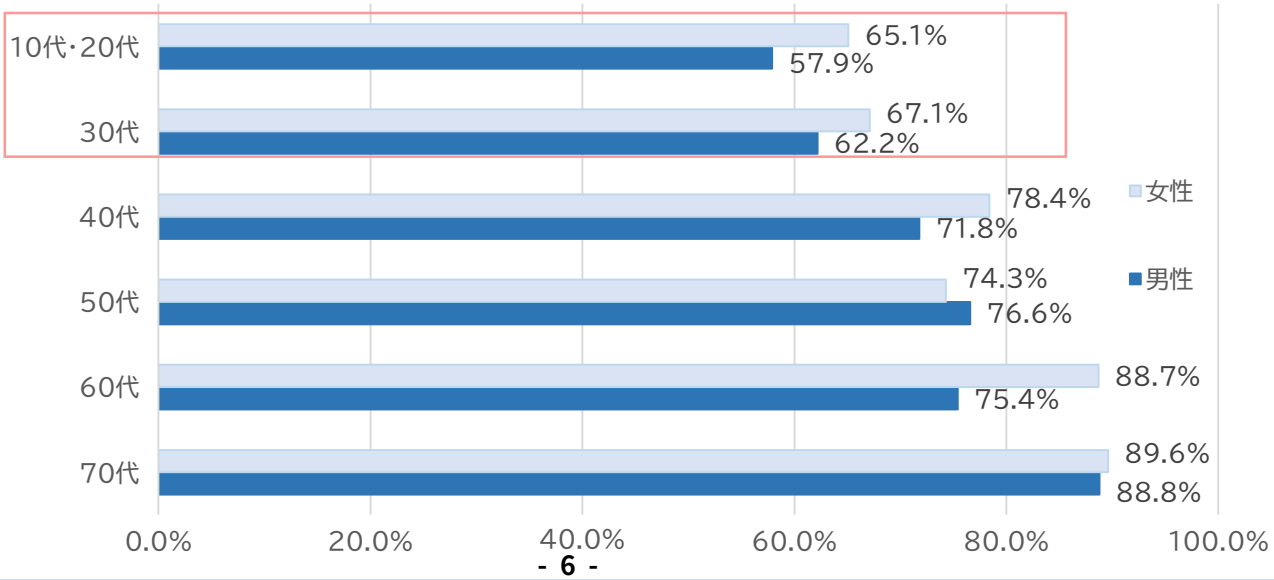
「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」をあわせた割合は、77．0%でした。





＜年代別の朝食の摂取状況＞

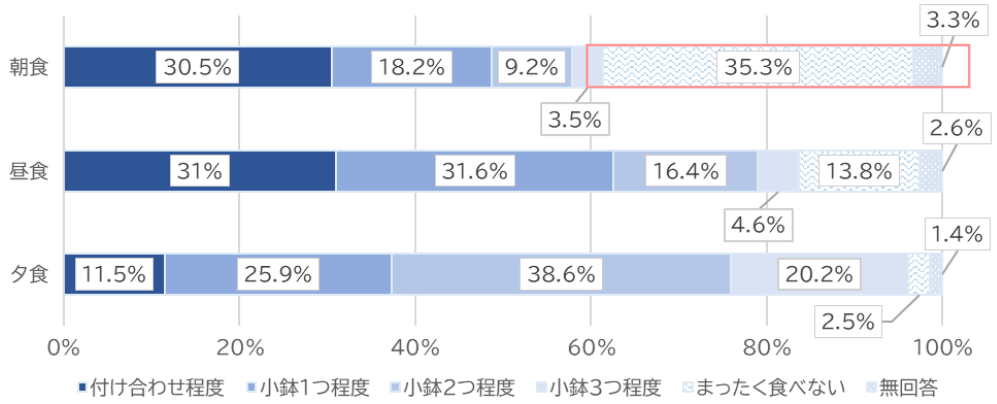
「ほとんど毎日食べる」の割合が 78.0%と最も高くなっています。また、10～30 代で「ほとんど毎日食べる」の割合が 5～7 割と、他の世代に比べると低くなっています。



取組の詳細

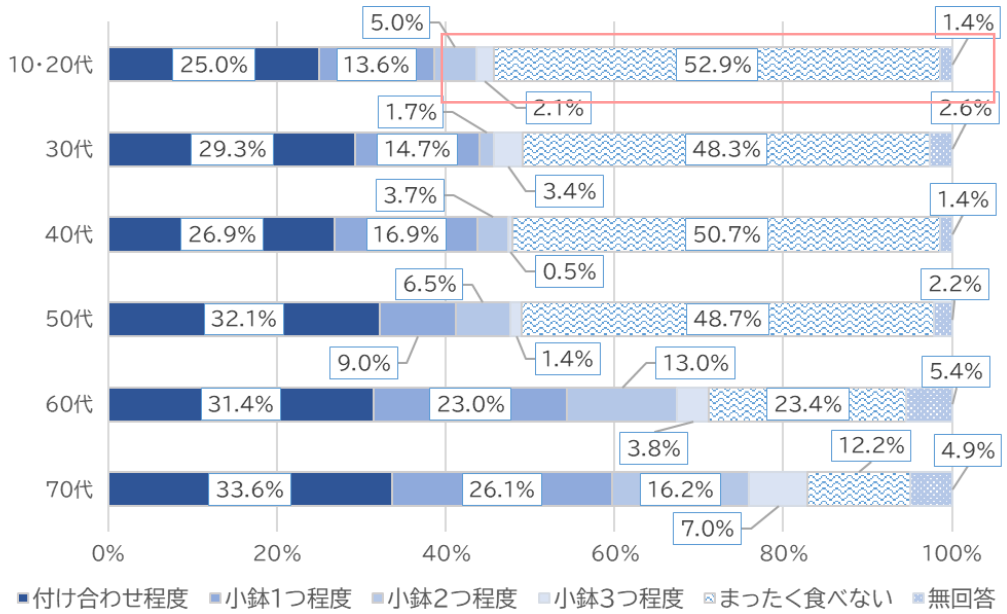
＜朝食・昼食・夕食それぞれにおける野菜の摂取状況＞

3食の中で野菜料理を「まったく食べない」割合は、朝食で最も高くなっており、野菜料理を最も多くとる食事は、夕食となっています。



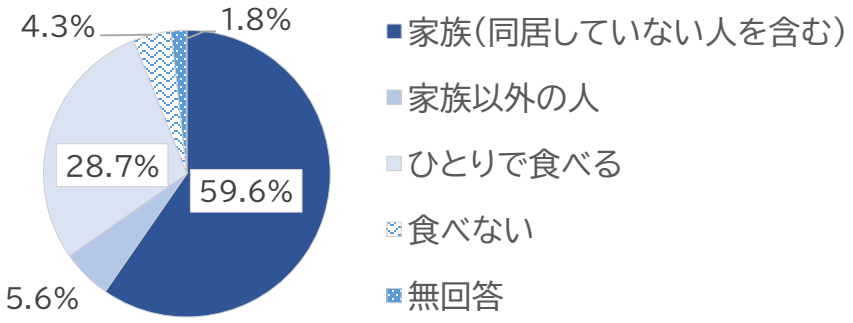
＜年代別にみる野菜料理の摂取状況＞

朝食における野菜料理の摂取状況について、年齢別では、10・20 代で「全く食べない」の割合が最も高くなっています。



＜共食の状況＞

家族や友人等とともに食卓を囲む「共食」をしている人の割合は、65.2%でした。



食育への関心が高い一方で、共食ができている割合が低く、若い世代ほど、朝食の欠食が多く、野菜料理の朝食における摂取率が低いことが分かりました。

この結果を受け、食育への関心のさらなる向上と、若い世代を中心とした食育推進、野菜の摂取率向上に向けた取り組みを実施しています。

2 望ましい栄養・食生活の推進

取組の詳細

市民一人ひとりが、ライフステージに応じた食の知識と選択する力を習得し、望ましい食生活を送ることができるように支援しています。

(1)食育講演会

市民が食育に関する理解を深め、実践につなげることを目的に、食に関する専門家による講演会を開催しています。主なテーマは、望ましい食生活の習慣化や食文化の伝承についてです。

＜野菜摂取量増加のための講演例＞※講師の所属・肩書は開催時のもの

テーマ	講師	参加者数
「お弁当の世界～簡単にできちゃう！バランス弁当のコツと最新お弁当箱の紹介～」	料理家・弁当コンサルタント 野上 優佳子 氏	89名
「冷凍王子直伝！『時短』『食品ロス』のためのフリージング術」	冷凍生活アドバイザー 西川 剛史 氏	64名
「簡単おいしい『3STEPレシピ』～手軽においしく、もっと野菜を食べよう！～」	料理研究家 ヤミー 氏	93名

＜料理研究家　ヤミー氏　講演会のようす＞

(2)食育月間・食育の日

6月の「食育月間」や毎月19日の「食育の日」にあわせ、主食・主菜・副菜をそろえて食べる機会や野菜摂取量の増加、減塩を意識した食事につながるように、市庁舎や市内施設等において食育の普及啓発活動を行っています。

＜取組の一例＞

・庁用車への食育月間ステッカー添付

・中央図書館児童コーナーに食育関連書籍を設置（図書館職員との連携）

・懸垂幕の掲示

・市民ホールレストラン・健康福祉会館へのぼり旗を設置

・SNS・デジタルサイネージによる啓発

＜町田マルイ・モディのデジタルサイネージ、SNSでの発信＞

＜町田市庁舎　懸垂幕の掲示＞

3 食を通じて地域とつながるための支援

家族や友人等とともに食卓を囲む、「共食」のメリットの啓発を進めるほか、町田産農産物を購入する機会や、町田産農産物を使った料理を食べる機会を増やす取り組みを進めています。

取組の詳細

(1)町田市食育ボランティアによる食育活動

町田市が実施する養成講座を修了した方を、「町田市食育ボランティア」として登録しています。子どもから大人まで幅広い世代を対象に、共食の推進や食事マナーについて啓発しています。

市が行うイベントや地域等からの活動依頼を受けて、子どもから大人まで楽しめる幅広い食育活動を行っています。

活動の内容の例:食文化(和食)や食事のマナーに関するクイズ・ゲーム
紙芝居の読み聞かせ、調理実習等

・ボランティア登録人数:25名(2024年8月時点)

	2021年度	2022年度	2023年度
活動回数	4回	7回	9回

＜保育園での活動のようす＞

(2)まちだすいとんの提供

野菜摂取量の増加や、町田産農産物の普及啓発、町田の地域の味の継承を目的として、市内の農家さんが昔から食べていたすいとんを、保健所と地域活動栄養士会の栄養士が「まちだすいとん」として、レシピにしました。

町田市食育ボランティアによる普及や、学校給食等における提供によって、2022年度末には累計提供数が3万食を突破しており、多くの市民に愛されている地域の味です。

＜まちだすいとんの特徴＞
①季節の町田産野菜を使用します。
ただし、ごぼうは風味が強いため使用しません。

②長ネギの緑色の部分まで無駄なく使い、よく炒めます。

③すいとんは、中力粉(地粉)を使い、よくこねて、
薄く引っ張ってちぎった平たい形をしています。

町田市内で栽培されている小麦粉が中力粉のため、
中力粉を使用します。

＜まちだすいとん＞

取組の詳細

（3）食に関する体験ツアー

町田市内の食や農業生産者とふれる機会を増やすとともに、生産者から話を聞く機会や、作業を体験する機会を提供することで、食に対する感謝の心を育むことを目的に、親子を対象に実施しています。

＜食体験事業一例＞

実施年度	テーマ	対象	参加者数
2021	～食体験×スポーツで町田の魅力を発見！withFC町田ゼルビア～	小～中学生の子どもとその保護者	大人　12人 子ども11人（親子9組　計23名）
2022	秋を楽しむ！町田の野菜まるごと体験ツアー	3歳～中学生の子どもとその保護者	大人　12人 子ども11人（親子9組　計23名）
2023	町田の食を味わおう！～ブルーベリーの収穫体験＆まちだランチ～	3歳～中学生の子どもとその保護者	大人　9人 子ども11人（親子9組　計20名）

＜withFC町田ゼルビア＞

＜農場での収穫体験＞

＜まち☆ベジ弁当＞（※1）

＜ブルーベリー農園での収穫体験＞

（※1）まち☆ベジ

町田市内在住の農業者、又は町田市内に農業経営の拠点がある農業者が、生産記録等の管理の下で生産した農産物を、町田産農産物のブランド化の目的で、「まち☆ベジ」と呼んでいます。

4　食に関する環境の整備

バランスの良い食事や朝食をとる習慣・望ましい栄養・食生活が身につきやすい環境を整えるために、企業と連携した取り組みや、情報発信を行っています。

(1)民間企業や大学との連携

市民の野菜摂取量増加を目的に、民間企業や市内事業者、相模原市に加え、市内の大学も参画し、野菜レシピブックの作成・配布を行いました。

2022年度から2023年度までに4回発行しており、市内では計18,958部配布しています。

	配付数(内:町田市内施設配布数)	配付期間
第1弾	5,808部(2,928部)	2022年　6月　1日～　6月30日
第2弾	13,000部(3,510部)	2022年11月28日～12月31日
第3弾	13,900部(5,500部)	2023年　6月　1日～　6月30日
第4弾	19,470部(7,020部)	2023年　6月　1日～　6月30日

取組の詳細

＜市ホームページに掲載＞

＜作成したレシピブック＞

取組の詳細

(2)SNSや動画を使用した周知

SNSや動画を活用した情報発信を行っています。

市民(特に若い世代)が食に関する情報を知り、望ましい食生活の実践につなげることを目的としています。

・SNSでは、簡単に作れるレシピや、町田産農作物「まち☆ベジ」の紹介などを行いました。

＜フォロワー数＞(2024年3月末現在)
・Instagram:494件

・X(旧Twitter):642件

＜SNSに掲載しているレシピ例＞

・電光掲示板及びデジタルサイネージを活用して、食育に関心がない人にも関心を持ってもらえるよう、広く市民へアプローチを行いました。

＜FC町田ゼルビア電光掲示板PR画像の例＞

＜ASVペスカドーラ町田電光掲示板PR画像の例＞

＜丸井・モディ デジタル広告 動画＞

＜神奈川中央交通 デジタル広告 動画＞

5　その他の普及啓発活動

（1）広報まちだ、ホームページ

食育に関する周知・啓発をホームページや広報誌等で行っています。

＜広報まちだ＞

食に関する知識やイベント周知に関する情報を中心に掲載しています。

＜ホームページ＞

事業の概要や活動の紹介、日々の生活に役立つレシピ集などを掲載しています。

（2）市役所での掲示や企業とのコラボイベント

取組の詳細

食育に関するイベント等を行っています。あわせて、その周知をチラシやポスターを用いて行っています。

＜市役所　イベントスタジオでの展示＞

＜市庁舎　コンビニエンスストアとの連携＞

＜東急リバブルでのイベント及びポスター＞

＜食育月間図書館コーナーイベント及びポスター＞

成果

＜食育に関心がある人の割合＞

	2013年度	2018年度	2023年度	2031年度
目標値(%)	-	90.0	-	85.0
現状値(%)	80.8	82.1	77.0	-

＜「共食」をする人の割合＞

	2013年度	2018年度	2023年度	2031年度
目標値(%)	-	-	-	75.0
現状値(%)	-	71.4	65.3	-

＜朝食を食べる人の割合＞

	2013年度	2018年度	2023年度	2031年度
目標値(%)	-	-	-	85.0
現状値(%)	83.1	85.9	78.0	-

＜1日の野菜の摂取量＞

	2013年度	2018年度	2023年度	2031年度
目標値(g)	-	350	350	350
現状値(g)	250	265	233	-

＜朝食に野菜を食べる人の割合＞

	2013年度	2018年度	2023年度	2031年度
目標値(%)	-	-	-	70.0
現状値(%)	66.9	68.3	61.4	-

＜食育に関するSNSでの閲覧件数＞※2023年3月末現在

Instagram　年間155回発信 「いいね」1,053件
X(旧Twitter)年間155回発信 「共有(リツイート)」232件、「いいね」775件、
「インプレッション」48,464件

論点

議論のポイント①

効果的な周知・啓発方法について

評価人チームが考える問題点①

・食育への関心度や課題が、世代や性別などによって異なるため、分析をする必要があるのではないか。

・SNSのフォロワーが少なく、内容としてもあまり読みたいと感じるようなものでないと感じた。内容に工夫が必要ではないか。

議論のポイント②

若者・無関心層に向けた効果的な推進方法について

評価人チームが考える問題点②

・食事の大切さを訴えかける発信をすると同時に、食事を抜くことや栄養が取れていないことによる悪影響についても発信する必要があるのではないか。

・若者や無関心層の行動変容を促すためには、強烈な体験が必要である。そのためには、民間企業や大学等との連携を含め、「食体験」を充実させる必要があるのではないか。

・行動変容の前に、意識変容に関する成果指標を設定する必要があるのではないか。

2023年度 課別行政評価シート

部名	保健所	課名	保健予防課	歳出目名	保健予防費
				事業類型	c:その他型

1.組織概要

組織の使命	予防接種や医療費助成、母子保健等に係る業務を適切に実施し、市民一人ひとりが健やかで安心して過ごせるための支援を充実させます。	他自治体の取り組み等	◆子どもの定期接種について、市民の利便性向上のため、相模原市との間で都県をまたいだ相互乗入を実施しています。◆産後ケア事業について、利用料を減免している自治体は、都内26市中町田市を含む8市となっています。
所管事務	◆医療費助成(感染症・大気汚染等)に関すること◆健康づくりの推進に関すること◆食育推進に関すること◆精神保健に関する専門相談の対応をすること◆感染症の予防と対応に関すること◆歯科保健に関すること◆難病に関する相談の対応をすること◆母子保健に関すること◆保健栄養に関すること◆健康福祉会館の管理運営に関すること◆予防接種に関すること◆新型コロナウイルスワクチン接種に関すること		

2.2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆産後ケア事業について、育児に不安のある方や産後の支援が十分でない方が安心して子育てできるように、利用者のニーズを把握し、支援を充実させる取り組みが必要です。◆食育推進活動については、民間企業や関係団体等と協力し、地域の資源を活用した望ましい食を選択しやすい環境づくりや、日常生活の中で食の情報を繰り返し目にする機会を増やすための取り組みが必要です。◆高齢者に対するオーラルフレイル予防のための『口トレ』と高齢者歯科口腔機能健診は周知が進んでいますが、成人期の歯科口腔健康診査の受診者が減少しています。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆成人期に対する歯科普及啓発を実施します。	◆産後ケア事業について、サービスや支援について継続して検討を行います。◆食育推進活動については、地域の施設等において、地域での取組を増やします。◆歯科健診を受ける就労世代が増える仕組みを検討します。

取組状況		
	◎	◆二十祭まちだにブース参加し、新成人の歯科保健行動に関する実態把握を行いました。◆産後ケア事業について、初回から5回目までの利用について、所得にかかわらない利用料の減免を導入し、経済的負担軽減及び利便性向上を実現しました。2023年度の利用申請件数は993件で、2022年度と比較して286件増加しました。◆子どもセンターまあち及びばお分館WAAAOにて、食育の日の普及啓発を行いました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
就労世代を対象とした新たな普及啓発の実施回数	回	目標	-	-	2	2	2	歯周病の割合が増加する就労世代を対象とした、新規の普及啓発実施回数
		実績	-	-	3		(2026年度)	
産後ケア利用日数	日	目標	700	1,000	2,300	2,300	2,300	日帰り型、宿泊型及び訪問型延べ利用日数(2020年度～訪問型開始、2021年度～訪問型1歳未満へ延長)
		実績	717	1,106	1,736		(2024年度)	
出産・子育てしっかりサポート事業における妊婦面接者数	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	妊婦面接を受けた方の人数
		実績	1,878	2,108	2,346		(2024年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆歯周病の割合が増加する就労世代を対象として、町田GIONスタジアムの電光掲示板を利用した普及啓発、わくわくワクチンプラスと二十祭まちだへの出展の計3回啓発事業を実施しました。◆歯科口腔健康診査の受診者数は2022年度1,327人(内:妊婦382人)、2023年度1,394人(内:妊婦406人)と増加しています。◆産後ケア事業について、初回から5回目までの利用について、所得にかかわらない利用料の減免を導入し、経済的負担軽減及び利便性向上を実現しました。2023年度の利用申請件数は993件で、2022年度と比較して286件増加しました。◆国の「出産・子育て応援交付金」を活用し、妊産婦に対する相談支援と経済的支援を行い、2023年度の妊婦面接を受けた人数は、2,346人となり2022年度と比較して238人増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	833,845	790,817	783,516	△ 7,301
	うち時間外勤務手当	72,687	41,764	29,678	△ 12,086
	物件費	**4,788,389**	**4,726,003**	**2,655,682**	**△ 2,070,321**
	うち委託料	4,645,486	4,522,586	2,529,972	△ 1,992,614
	維持補修費	2,109	1,105	2,548	1,443
	扶助費	1,707,343	1,249,635	485,728	△ 763,907
	補助費等	**96,976**	**376,256**	**4,244,884**	**3,868,628**
	減価償却費	25,106	24,620	25,939	1,319
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0
	賞与・退職手当引当金繰入額	181,976	114,778	132,285	17,507
	行政費用 小計 (b)	7,635,744	7,283,214	8,330,582	1,047,368
特別費用 (g)		14,896	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)		△ 14,896	0	0	0

勘定科目		2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A
行政収入	地方税	0	0	0	0
	保険料	0	0	0	0
	国庫支出金	**7,452,172**	**5,449,745**	**1,813,611**	**△ 3,636,134**
	都支出金	**310,322**	**602,077**	**499,889**	**△ 102,188**
	分担金及負担金	27,984	31,846	29,059	△ 2,787
	使用料及手数料	1,776	1,882	1,734	△ 148
	その他	4,449	4,433	3,823	△ 610
	行政収入 小計(a)	7,796,703	6,089,983	2,348,116	△ 3,741,867
行政収支差額 (a)-(b)=(c)		160,959	△ 1,193,231	△ 5,982,466	△ 4,789,235
金融収支差額 (d)		0	0	0	0
通常収支差額 (c)+(d)=(e)		160,959	△ 1,193,231	△ 5,982,466	△ 4,789,235
特別収入 (f)		0	0	0	0
当期収支差額 (e)+(h)		146,063	△ 1,193,231	△ 5,982,466	△ 4,789,235

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	補助費等	国庫支出金
決算額の主な内訳	新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費国庫補助金返還金 40億円 新型コロナウイルスワクチン接種促進支援事業協力金 82,984千円 予防接種健康被害給付金 49,098千円 など	新型コロナウイルスワクチン接種対策費負担金 655,736千円 新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費補助金 648,994千円 出産・子育て応援交付金 192,085千円 新型コロナウイルス感染症入院医療療養費負担金 186,592千円 など
主な増減理由	新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費国庫補助金の返還のため、国庫支出金返還金が40億円増加。新型コロナウイルスワクチンの接種促進のため、負担金補助及び交付金が82,984千円増加。	新型コロナウイルスワクチン接種者の減少により、新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費補助金が3,326,313千円、感染症対策費負担金が542,417千円減少。

勘定科目	物件費	都支出金
決算額の主な内訳	予防接種ワクチン確保供給委託料 526,428千円 集団接種会場運営管理委託料 208,974千円 新型コロナウイルスワクチンコールセンター設置運営業務委託料 183,721千円 など	とうきょうママパパ応援事業費補助金 194,809千円 帯状疱疹ワクチン任意接種補助事業費補助金 84,967千円 新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金 38,927千円 妊婦健康診査支援事業費補助金 21,523千円 など
主な増減理由	集団接種会場実施規模の縮小により、会場運営・医療事務などの委託料が1,048,260千円減少。HPVワクチンについて新たなワクチンが加わったことにより、ワクチン確保供給委託料が118,327千円増加。	高齢者インフルエンザ予防接種補助事業の廃止により、153,002千円減少。とうきょうママパパ応援事業費補助金について新たに出産・子育て応援給付金が追加されたことにより、108,024千円増加。

③貸借対照表

（単位:千円）

勘定科目			2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		300,000	2,578	△ 297,422	流動負債		60,460	72,706	12,246
	不納欠損引当金		0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0		地方債	0	0	0
固定資産	事業用資産	有形固定資産	493,602	468,419	△ 25,183		賞与引当金	60,460	72,706	12,246
		土地	**47,971**	**47,971**	**0**		その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	**1,240,806**	**1,240,806**	**0**	固定負債		542,508	567,198	24,690
		建物減価償却累計額	△ 795,175	△ 820,358	△ 25,183		地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	542,508	567,198	24,690
		工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
		無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		602,968	639,904	36,936
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産		193,596	△ 166,701	△ 360,297
		土地	0	0	0					
		工作物(取得価額)	0	0	0					
		工作物減価償却累計額	0	0	0					
		無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定		0	0	0					
	その他の固定資産		**2,962**	**2,206**	**△ 756**	純資産の部合計		193,596	△ 166,701	△ 360,297
資産の部合計			796,564	473,203	△ 323,361	負債及び純資産の部合計		796,564	473,203	△ 323,361

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	土地(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	健康福祉会館　1,240,806千円	健康福祉会館敷地　47,971千円	スポットビジョンスクリーナー2台　健康福祉会館　2,206千円
主な増減理由	減価償却により、25,183千円減少。	増減なし	スポットビジョンスクリーナーの減価償却により245千円減少。鶴川保健センター　歯科ユニットの減価償却により511千円減少。

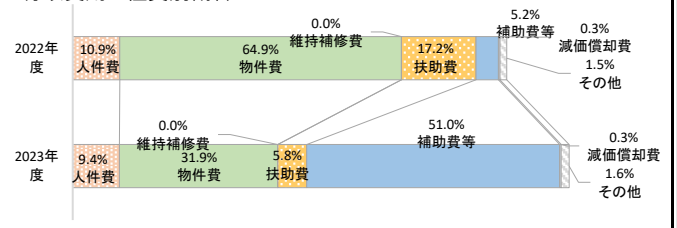
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

（単位:千円）

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	2,645,538	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	8,267,707	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 5,622,169	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額　合計 (a)+(b)+(c)	△ 5,622,169
				一般財源充当調整額	5,622,169

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

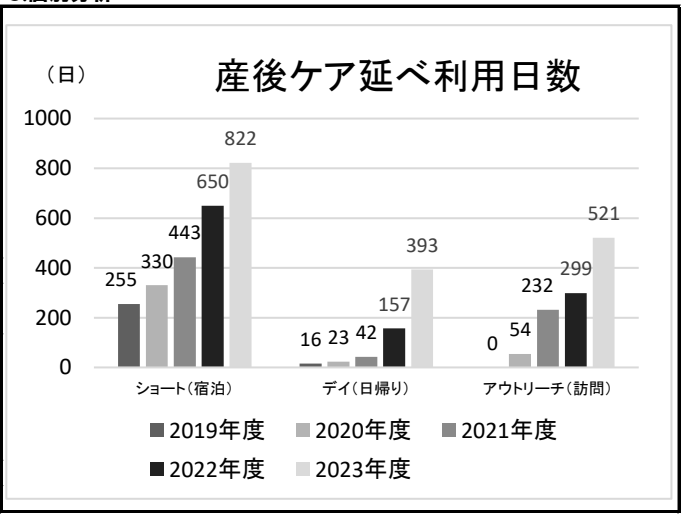


▽事業に関わる人員

（単位:人）

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
内訳	保健予防課管理事務	32.6			9.7		42.3	30.2
	予防接種	2.6			2.7		5.3	6.2
	母子保健	24.3			26.1	8.5	58.9	53.2
	精神・難病・感染症	24.9			13.6	1.4	39.9	54.6
	栄養・成人	3.6			2.6		6.2	6.2
2023年度 歳出目　合計		88.0	0.0	0.0	54.7	9.9	152.6	150.4
2022年度 歳出目　合計		87.0	0.0	0.0	52.1	11.3	150.4	

6.個別分析



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆新型コロナウイルスワクチン接種では、全接種希望者が接種できるよう、必要な予約枠を確保しました。その結果、約18万回の接種を行いました。集団接種会場の開催日時を工夫し、2022年度と比較して、集団接種の委託料が10億円減少しました。◆帯状疱疹の発症予防、重症化予防及び市民の生活の質の向上を目的として、帯状疱疹ワクチンの予防接種に対する助成を開始しました。その結果、9,344人が接種しました。◆産後ケア事業では、所得にかかわらない利用料金の減免(2,500円/回)の導入により、延べ利用日数が2022年度と比較し、1,106日から1,736日(＋57%)に増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

新型コロナウイルスワクチン接種では、職員体制が縮小となり、業務効率化のため、担当見直しを行ったことにより、効率的かつ計画的に業務を行うことができました。この結果、職員一人当たりの時間外勤務時間数が2022年度と比較し年間136時間から63時間(△53%)に削減することができ、人件費が5,845千円から1,667千円(△4,178千円)に減少しました。◆予防接種事業において、予防接種証明書発行等についてオンラインでの手続きを可能としたことにより、効率的に業務を行うことができ、年間で約66時間の業務量削減につながりました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆成人期の中でも歯周病の割合が増加する就労世代を対象とした歯科保健の普及啓発が必要です。◆産後ケア事業について、増加する利用者のニーズを把握し、育児に不安のある方や産後の支援が十分でない方が安心して子育てできるように、支援を充実させる取り組みが必要です。◆新生児訪問等の訪問件数が増えており、早期に必要な支援に繋げられるように、迅速に適切な訪問を行うことが求められています。◆食育推進活動については、民間企業や関係団体等と協力し、地域の資源を活用した望ましい食を選択しやすい環境づくりのさらなる取り組みが必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆就労世代に対し、予防歯科に関する歯科保健の普及啓発を実施します。◆新生児訪問等について、里帰りされる方も多いため、引き続き、自治体間での連携を図って適切・迅速に対応していきます。◆食育の推進について、健康と食生活の視点から、各分野と連携し取り組みを進めます。	◆歯科健診を受ける就労世代が増える仕組みを検討します。◆産後ケア事業について、サービスや支援について継続して検討を行います。

トピックス	学校開放
公会計事業名称	生涯学習センター費・学校施設開放事業

部名	生涯学習部・文化スポーツ振興部	課名	生涯学習総務課・生涯学習センター・スポーツ振興課
目的	文化、スポーツ等の地域活動の場としての学校施設活用		
事業の対象	市民、町田市に在勤・在学している方		
根拠法令	学校教育法、社会教育法、スポーツ基本法、町田市立学校施設の開放に関する条例		

生涯学習センター費・学校施設開放事業の概要

＜生涯学習センター費＞

◆生涯学習に係る全体計画の立案及び推進に関すること

生涯学習施策を具現化するためのアクションプランとして「町田市生涯学習推進計画2019－2023」を策定し、各取組の進捗管理を行っています。

◆市民大学事業その他の生涯学習に係る講座、講演会等の実施に関すること

市民に生涯学習の機会を提供するため、市民大学等の講座事業や平和祈念事業等を実施しています。また、講座を企画する機会や活動の成果発表の場を提供し、市民団体の活動支援を行っています。

◆生涯学習に係る活動支援、団体及び関係機関との連絡及び総合調整に関すること

様々な知識や技術や経験をお持ちの方を登録した「町田市生涯学習ボランティアバンク」を活用し、身近な学習活動を通じた知識等の習得を希望する方々との橋渡しをしています。

◆生涯学習に係る情報の集約及び市民への提供、相談業務に関すること

生涯学習に役立つ情報誌の発行や生涯学習に関する様々な情報を提供しています。また、学習者のニーズを把握し、学習活動の質を高め、継続的なものにするための助言を行っています。

◆生涯学習センターの施設、設備管理並びに市民への利用提供に供すること

市民の生涯にわたる学習活動を総合的に支援し、町田市における豊かな生涯学習社会の実現に資するため、生涯学習センターの施設、設備管理及び施設貸し出しを行っています。

◆市立小中学校の教室開放に関すること

市立小中学校の特別教室等を学校教育に支障のない範囲で開放し、地域の方々の文化活動等の場として提供しています。

＜学校施設開放事業＞

◆市立小中学校施設の開放に関すること

市立小中学校の校庭、体育館を学校教育に支障のない範囲で開放し、地域の方々のスポーツ活動等の場として提供しています。

◆夏期学校プール開放、木曽中学校夜間照明設備、中学校温水プールの開放に関すること

・市内屋内プール4施設（市立室内プール、町田第一中学校、南中学校、鶴川中学校）について、小学生を対象に夏の一部期間開放し、子どものスポーツ機会を提供しています。
・木曽中学校の夜間照明設備を貸し出し、夜間にスポーツをする場を提供しています。
・中学校3校（町田第一中学校、南中学校、鶴川中学校）の学校温水プールについて、市民の方々の体力増進等のために開放し、スポーツ機会を提供しています。

＜全体事業費＞　A:生涯学習センター費　B:学校施設開放事業　　単位:千円

		2021年度	2022年度	2023年度
A財源内訳	町田市	230,515	224,541	226,029
	国、東京都※	4,449	16,662	16,416
	その他	6,153	9,016	11,074
計(Aのみ)		241,117	250,219	253,519
B財源内訳	町田市	48,433	51,150	47,681
	国、東京都	0	0	0
	その他	5,747	8,143	8,613
計(Bのみ)		54,180	59,293	56,294
事業費総計(A・B)		295,297	309,512	309,813

＜学校開放事業に関する事業費＞　　単位:千円

		2021年度	2022年度	2023年度
財源内訳	町田市	9,605	13,079	14,661
	東京都補助金※	0	9,730	10,000
	その他(施設使用料)	0	291	476
事業費総額		9,605	23,100	25,137

※子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助(2022年度から2024年度まで)

＜2023年度の主な事業費＞

・町田第一中学校図書室学習支援等業務委託　11,118千円

・特別教室地域利用管理業務委託　4,160千円

・消耗品費　716千円

＜学校開放事業に関する職員数＞

	2021年度	2022年度	2023年度
正規職員(人)	1.2	1.2	0.8
会計年度任用業務職員(人)	0	0.4	0.4
会計年度任用補助職員(人)	0	0	0
計	1.2	1.6	1.2

1　学校施設の開放

町田市では、学校教育法、社会教育法、スポーツ基本法に基づき、市民の文化活動・スポーツ活動等の場所として活用いただくため、学校教育に支障のない範囲で市立小中学校の施設を開放しています。

なお、特別教室等の開放事業については生涯学習部生涯学習センター、校庭・体育館の開放事業については文化・スポーツ振興部スポーツ振興課が実施しています。

（1）開放施設

開放施設	開放実施校
特別教室等（5校） （音楽室、調理室、図書室、ランチルーム等）	本町田小学校（※1）、木曽境川小学校、小山ヶ丘小学校 町田第一中学校（※2）、鶴川中学校
校庭（56校）	南つくし野小学校を除く市立小学校 町田第一中学校、南大谷中学校、南中学校、つくし野中学校、成瀬台中学校、南成瀬中学校、鶴川中学校、鶴川第二中学校、薬師中学校、金井中学校、忠生中学校、山崎中学校、木曽中学校、小山中学校、武蔵岡中学校
体育館（55校）	南つくし野小学校を除く市立小学校 町田第一中学校、町田第二中学校、南中学校、つくし野中学校、成瀬台中学校、南成瀬中学校、鶴川中学校、鶴川第二中学校、薬師中学校、忠生中学校、山崎中学校、小山中学校、堺中学校、武蔵岡中学校

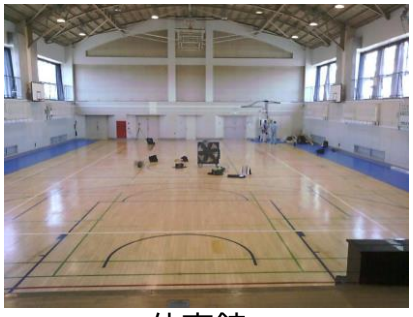
取組の詳細

（※1）学校統合に係る工事のため本町田小学校の開放は2024年3月で終了しています。
（※2）町田第一中学校：2021年度に新校舎が完成。2022年8月から特別教室等の開放を開始。予約システムを導入し、利用料を設定しています。
また、図書室を個人利用向けに開放しています。

＜音楽室＞

＜調理室＞

＜校庭＞


＜体育館＞

2 特別教室の開放

取組の詳細

特別教室の開放は、学校教育活動を行っていない時間帯の有効活用として主に地域の方を対象にして実施しています。原則として団体利用に限られますが、2022年8月から開放を開始した町田第一中学校の図書室については、個人利用が可能です。

(1)開放区画の考え方

学校の校舎内は、一般教室や職員室など、児童生徒の物品や個人情報等が保管されている部屋が多くあります。そのため、原則として、開放エリアと一般教室・職員室等がある非開放エリアを、シャッターや扉で区画分け可能な学校でのみ実施しています。

・区画分けの例（町田第一中学校）

(2)利用対象者、開放対象の教室と日時

＜利用対象者＞

以下の(1)～(3)の要件を全て満たす団体

(1)市内に活動拠点のある団体で、代表者が市内に在住する高校生相当年齢以上であること。

(2)構成員が5人以上で、その半数以上が市内に在住、在勤又は在学していること。

(3)構成員全員が同居の家族でないこと。

・町田第一中学校の図書室：市内に在住、在勤又は在学している方（小学校未就学児除く）

＜各学校で開放している特別教室＞

学校	特別教室
本町田小学校	多目的室、ランチルーム
木曽境川小学校	音楽室、家庭科室、ランチルーム
小山ヶ丘小学校	音楽室、家庭科室、図工室、理科室、第3音楽室
町田第一中学校	武道場、交流ホール、多目的室、音楽室、調理室、図書室
鶴川中学校	小ホール、ミーティングルーム

取組の詳細

＜主な利用内容＞

特別教室等	活動の例
多目的室、交流ホール	会議、講演会、講習会、囲碁・将棋、軽体操、ダンス
音楽室	歌、楽器、俳句・短歌
家庭科室、調理室	料理、囲碁・将棋
図工室、理科室	工作、書画、実験、囲碁・将棋
武道場	軽体操、剣道、卓球
小ホール	講演会、講習会
ミーティングルーム	会議、囲碁・将棋

＜特別教室の様子＞

＜武道場＞

＜交流ホール＞

＜多目的室＞

＜利用できる日時＞

各学校で、利用できる日時が異なります。また、利用時間には、準備、片付け、清掃、学校敷地外へ出るまでの時間を含みます。なお、年末年始は利用ができないほか、学校行事、選挙等により、利用を中止することがあります。

<table>
<tr><th>学校</th><th colspan="3">利用できる日時</th></tr>
<tr><td rowspan="3">本町田小学校
木曽境川小学校
小山ヶ丘小学校</td><td rowspan="2">平日
（火・木曜日のみ）</td><td>学校のある日</td><td>夜間（18:30～21:00）</td></tr>
<tr><td>休校日</td><td>午後（13:00～17:00）
夜間（17:30～21:00）</td></tr>
<tr><td colspan="2">土・日・祝日</td><td>午前（9:00～12:00）
午後（13:00～17:00）
夜間（17:30～21:00）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">町田第一中学校</td><td>図書室</td><td>土曜日、第1・3・5日曜日</td><td>9:00～17:00</td></tr>
<tr><td rowspan="2">図書室
以外</td><td>平日（月・火曜日のみ）</td><td>夜間（19:00～21:00）</td></tr>
<tr><td>土・日・祝日</td><td>午前（9:00～12:00）
午後（13:00～17:00）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">鶴川中学校</td><td colspan="2">平日（木・金曜日のみ）</td><td>夜間（18:30～20:30）</td></tr>
<tr><td colspan="2">土・日・祝日</td><td>午前（9:00～12:00）
午後（13:00～17:00）</td></tr>
</table>

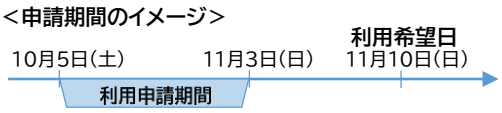
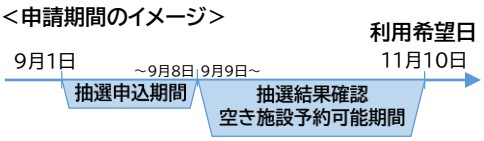
＜特別教室利用時の受付・施設管理＞

利用する際の受付や施設の管理は、「公益社団法人　町田市シルバー人材センター」に委託をしており、開放利用時は「地域利用管理人室」に常駐しています。

取組の詳細

（3）利用方法

開放を利用するには、団体登録が必要です。実施している5校のうち、町田第一中学校のみ、予約システムを使って登録・利用申請をする必要があります。

	開放実施校（4校）	町田第一中学校（図書室除く※1）
利用団体登録	生涯学習センター窓口で団体登録を申請（申請後、利用登録証を交付します）	生涯学習センター窓口で団体登録を申請（申請後、町田市施設案内予約システムのIDを付与します）
登録の有効期間	3年間	
利用申請方法	利用する学校の「地域利用管理人室」で利用申請書を提出して申請（申請後、利用承認書を交付します）	町田市施設案内予約システムで申請
	利用希望日の前月の第1土曜日～利用日の7日前まで利用申請が可能 ＜申請期間のイメージ＞  ・利用月ごとに4回分の申込が可能 ・受付時点で利用希望が重複した場合、その場で抽選	利用希望日の前々月の1日～8日に抽選の申し込みが可能 ＜申請期間のイメージ＞  ・利用月ごとに5回分の申込が可能 ・抽選結果は、申し込みした月の9日以降に予約システムにて確認が可能 ・抽選後に予約が入っていない施設は、利用当日の開始時間まで予約システムから予約することが可能
利用料金	無料	利用当日に使用料（下表参照）を現地で支払（券売機にて利用券を購入）
当日の利用方法	利用する学校の「地域利用管理人室」で「利用登録証」を提示して受付	「地域利用管理人室」で「施設等利用届」を記入し、利用券とともに提出して受付
その他	・町田第一中学校図書室の利用にあたっては、団体登録及び予約は不要です。 ・利用後は、片付け及び清掃のうえ、終了する旨を管理人へ報告していただきます。 ・来校時は徒歩又は公共交通機関の利用をお願いしています。	

＜町田第一中学校施設利用料金＞

利用当日に現地に設置している券売機にて利用券を購入する必要があります。

室場名	月曜日・火曜日	土曜日・日曜日・祝日		
	夜間	午前	午後	全日
	7:00～9:00	9:00～12:00	13:00～17:00	9:00～17:00
武道場	1,700円	2,500円	3,400円	5,900円
交流ホール	900円	1,400円	1,900円	3,300円
多目的室	500円	800円	1,100円	1,900円
音楽室	400円	700円	900円	1,600円
調理室	400円	600円	800円	1,400円
図書室	利用不可	無料		

・利用料の減額・免除

森野、中町、旭町、本町田、藤の台1～2丁目の町内会・自治会、青少年健全育成地区委員会、学校等により構成された町田第二地区協議会に所属する団体は、使用料が全額免除（2023年度実績：使用料免除団体の利用は約16%）

取組の詳細

（4）町田第一中学校 図書室「ここまちベース」

「ここまちベース」とは、町田第一中学校の図書室を地域の皆さんにより身近に感じていただくための愛称で、『ここ（町田第一中学校図書室）が、まち（地域）の、ベース（安心できる居場所）でありますように♪』という想いが込められています。

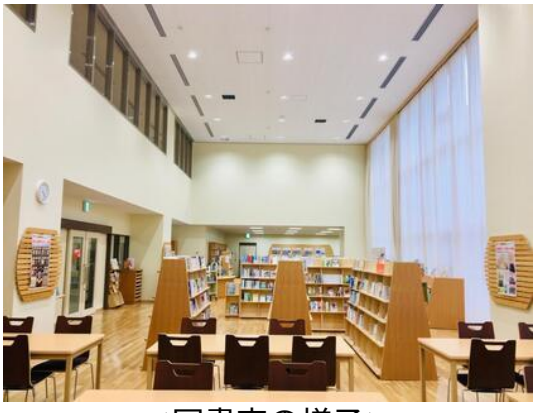
読書や学習スペースとして、予約不要・無料でご利用いただくことができます。

＜開館時間＞

原則、毎週土曜日と第1・3・5日曜日　9:00～17:00

＜館内の主なサービス等＞

①大学生スタッフによる学習支援	地域の大学生が学習支援員として常駐し、宿題や調べものなどの学習をサポートします。
②コミュニティスペース・集中スペース	友達と話しながら楽しく勉強できるスペースや静かにじっくり学習したい方向けのスペースがあります。
③Free Wi-Fi&コンセント	調べ学習等に役立てるよう、Free Wi-Fi等を提供しています。
④備品貸出サービス	延長コードやタブレットを貸出できます。
⑤本の閲覧	過去問題集や辞典が多数あります。



＜図書室の様子＞

＜大学生スタッフによる学習支援＞

＜コミュニティスペースの様子＞

＜利用者カード＞
初回利用時、ご本人確認の上
利用者カードをお渡し

図書室利用の受付や学習支援等については、「公益社団法人　相模原・町田大学地域コンソーシアム」に業務委託しています。

取組の詳細

（5）町田第一中学校の特別教室を活用したイベント

学校と地域がつながる拠点となるよう、町田第一中学校の特別教室等を活用して様々なイベントや講座を実施しています。なお、イベント等は、学習支援等に係る業務委託の一環として、「公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム」が実施しています。

＜2023年度に実施したイベント・講座＞

実施月	イベント・講座	参加人数（人）
4月	作ろう！私のブックマーク	7
5月	作ろう！私のブックマーク	3
6月	百人一首	3
7月	浴衣の着付け講座	9
8月	昔話の世界を楽しもう！	66
9月	作ろう！私のブックマーク	4

実施月	イベント・講座	参加人数（人）
10月	音トーク	1
11月	オリジナルリース作り	10
12月	図書室でクイズの答えを探し出せ！	80
1月	おりがみで凧づくり！	18
2月	百人一首であそぼう	5
3月	音トーク	2

＜イベント開催のお知らせ・当日の様子＞

イベント開催は、ポスター、ホームページ、SNSによりお知らせしています

＜図書室で凧を作成＞

＜作った凧を武道場であげてみました＞

3　校庭・体育館の開放

市立小中学校（小学校41校、中学校17校）の校庭・体育館を学校教育に支障のない範囲で市民のスポーツ活動の場所として活用いただくため、スポーツ団体等に開放しています。

（1）利用対象者、開放対象の施設と日時

＜利用対象者＞

以下の（1）～（3）の要件を全て満たす団体

（1）市内に活動拠点のあり、代表者が市内に在住する18歳以上であること。

（2）構成員が10人以上で、その半数以上が市内に在住、在勤又は在学していること。

（3）構成員全員が同居の家族でないこと。

＜利用できる施設（再掲）＞

学校	校庭	体育館	学校	校庭	体育館
南つくし野小学校を除く小学校（41校）	○	○	鶴川第二中学校	○	○
			薬師中学校	○	○
町田第一中学校	○	○	金井中学校	○	-
町田第二中学校	-	○	忠生中学校	○	○
南大谷中学校	○	-	山崎中学校	○	○
南中学校	○	○	木曽中学校	○	-
つくし野中学校	○	○	小山中学校	○	○
成瀬台中学校	○	○	堺中学校	-	○
南成瀬中学校	○	○	武蔵岡中学校	○	○
鶴川中学校	○	○			

＜主な利用内容＞

場所	主な利用内容
校庭	少年野球、サッカー、ソフトボール等（主に小中学生を対象としたもの）
体育館	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、武道、ダンス、体操等

＜利用できる日時＞

利用時間には、準備、片付け、清掃、学校敷地外へ出るまでの時間を含みます。なお、年末年始は利用ができないほか、学校行事、選挙等により、利用を中止することがあります。

利用できる日時	
平日の学校がある日	17:00～21:00
平日の学校が無い日（休校日）	8:00～21:00
土・日・祝日	

取組の詳細

（2）学校開放の運営方法

＜学校開放運営委員会＞

学校施設の校庭・体育館の利用を円滑に進めるために、各学校には「学校開放運営委員会（以下「運営委員会」という。）」を設置しており、施設管理以外の運営を行っています。

＜主なメンバー＞

各学校を利用しているスポーツ団体、学校の教員、地域の自治会など

＜運営委員会の主な役割＞

①施設利用をする上での学校との調整

②学校や各団体からの連絡事項の共有・周知

③開放利用のスケジュール調整

④利用団体に関する報告や、開放利用の実績に関するスポーツ振興課への報告

（3）利用方法

校庭・体育館の利用予定の調整は、主に運営委員会が行っています。

利用団体登録	新規に利用を希望する場合は、各学校の運営委員会に連絡し、利用方法等の確認や調整を行ったうえで、団体登録申請を行う
登録の有効期間	1年間（申請日の年度末まで）
利用申請（調整）方法	・利用団体は、利用月の前月中に、各学校の運営委員会で利用調整を行う ・キャンセル等の変更が生じた場合は、必要に応じて再度調整する ・利用月ごとに4回分の申し込みが可能 ・定められている回数分以上の利用については、開放施設に空きがあり、運営委員会として認める場合に限り利用可能
利用料金	・無料 ・体育館の空調を使用した場合は1時間当たり300円を後日支払
当日の利用方法	・原則、施設の管理人はいないため、利用時の受付等は不要 ・利用後、利用者自身で後片付け、原状復帰確認、施錠等を実施
その他	多くの学校で開放用の鍵や機械警備解除用のカードを入れたキーボックスを体育館の玄関付近に設置しており、運営委員会で管理している暗証番号を使用して利用者自身がキーボックスから鍵等を取り出し、施設の開錠・施錠を行っていただいています。

4　その他の学校施設の利用

取組の詳細

市立小中学校は、「特別教室の開放」や「校庭・体育館の開放」以外の利用として、市の事業や地域団体等の様々な用途で利用されています。

これらの利用については、主に各学校の副校長が窓口となり、個別に利用予定の調整をしているほか、利用する地域団体等が運営委員会の構成員となり、予定を調整している学校もあります。

また、開放利用しているスポーツ団体等と連携した活動を実施している事例もあります。

＜市の事業による利用例＞

・放課後子ども教室まちとも

・学童保育クラブ

＜地域団体等による利用例＞

・青少年健全育成地区委員会（会議、イベント等）

・町内会・自治会の行事（お祭り、運動会、防災訓練等）

＜運営委員会との連携事例＞

・「放課後子ども教室まちとも」や学童保育クラブの児童向けに放課後スポーツ教室を実施（忠生第三小学校、藤の台小学校等）

・学校近隣自治会の活動のための枠を設け、スポーツを通じて地域の方同士が交流を深める機会を提供（図師小学校）

成果

＜登録団体数＞

開放施設	2021年度	2022年度	2023年度
特別教室(団体)	27	41	47
校庭(団体)	141	118	112
体育館(団体)	234	300	290
計	402	459	449

＜利用状況＞

・2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な活動が縮小されたため利用件数が減少しましたが、2022年度以降は増加傾向となり、2023年度は概ね従前の利用状況に回復しました。

（人数:延べ人数）

開放施設		2021年度		2022年度		2023年度	
		件数(件)	人数(人)	件数(件)	人数(人)	件数(件)	人数(人)
特別教室等	小学校	124	1,675	137	1,881	143	2,419
	中学校	40	880	249	5,961	349	9,370
校庭	小学校	3,652	147,144	4,994	191,761	5,049	213,528
	中学校	350	7,624	393	9,052	905	16,455
体育館	小学校	5,506	103,495	11,620	187,475	10,798	198,751
	中学校	1,823	21,384	3,175	38,768	3,414	42,213
町田第一中学校図書室(個人利用)		-	-	-	534	-	695
計		11,495	282,202	20,568	435,432	20,658	483,431

・中学校は部活動があるため、小学校と比較して開放可能な日数・時間が少なくなります。

＜町田第一中学校　図書室＞

地域利用日数(日)	利用人数(人)	1日あたり利用人数(人)	学習支援利用人数(人)
74	695	9.4	122

＜町田第一中学校の特別教室等で開催したイベント参加人数＞

	2022年度	2023年度
イベント開催数(回)	3	12
参加人数(人)	64	208

成果

＜2023年度特別教室の利用実績＞

＜本町田小学校＞

教室名	利用件数(件)	利用人数(人)	利用率(%)
多目的室	22	535	7.1
ランチルーム	8	226	2.6
合計	30	761	4.8

＜木曽堺川小学校＞

教室名	利用件数(件)	利用人数(人)	利用率(%)
音楽室	2	80	0.6
家庭科室	4	116	1.2
ランチルーム	33	859	9.6
合計	39	1055	3.8

＜小山ヶ丘小学校＞

教室名	利用件数(件)	利用人数(人)	利用率(%)
理科室	44	295	14.2
図工室	0	0	0.0
音楽室	1	20	0.3
第3音楽室	10	132	3.2
家庭科室	19	156	6.1
合計	74	603	4.8

＜町田第一中学校＞

教室名	利用件数(件)	利用人数(人)	利用率(%)
武道場	60	1,480	43.8
交流ホール	162	5,289	51.1
多目的室	41	603	20.4
音楽室	40	793	22.1
調理室	36	960	11.3
図書室(個人利用)	－	695	－
合計	339	9,820	29.4

＜鶴川中学校＞

教室名	利用件数(件)	利用人数(人)	利用率(%)
小ホール	31	790	10.6
ミーティングルーム	0	0	0.0
合計	31	790	5.3

＜2023年度　小・中学校の校庭・体育館の利用実績＞

○町田第五小学校

貸し出し場所	利用件数(件)	利用人数(人)	利用者層
体育館(平日(火曜以外)17時～21時、土・日・祝日　8時半～21時)	369	7,235	小・中学生　5団体 大人　1団体
校庭(平日(月曜以外)16時半～19時、土・日・祝日　8時半～21時)	276	9,596	小・中学生　2団体
合計	645	16,804	8団体

○成瀬台中学校

貸し出し場所	利用件数(件)	利用人数(人)	利用者層
体育館(平日(火曜以外)17時～21時、土・日・祝日　8時半～21時)	312	5,284	小・中学生　1団体 大人　6団体
校庭(平日(月曜以外)16時半～19時、土・日・祝日　8時半～21時)	92	1,919	小・中学生　2団体 大人　1団体
合計	404	7,203	10団体

論点

議論のポイント①

市民のための学校の活用方法や利便性の向上について

評価人チームが考える問題点①

・やみくもに学校施設を開放するのではなく、需要を把握したうえで、運用方法や使い方について検討する必要があるのではないか。
・利用率向上のためには、予約方法やルールなどを積極的に周知する必要があるのではないか。

・学校開放の利用率を向上させるための取り組みとして、個人利用や一般開放の導入や、講座・イベントの実施など、地域コミュニティの活性化につながるような仕組みを検討する必要があるのではないか。

・予約が簡単にできるなど、地域の方がより利用しやすい施設管理方法を検討する必要があるのではないか。

議論のポイント②

「学校開放」実施にあたっての公平性について

評価人チームが考える問題点②

・学校開放を実施するためには、受益者負担の導入についても検討する必要があるのではないか。

2023年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習センター	歳出目名	生涯学習センター費
				事業類型	a:施設所管型

1.組織概要

組織の使命	市民が生涯にわたって、いつでもどこでも自由に学び続け、支え合うことができるよう支援します。	他自治体の取り組み等	◆町田第一中学校では、地域団体に向けた特別教室の貸出に加え、図書室を学習スペースとして個人向けに開放しています。図書室には、地域の学生が学習支援員として常駐し、利用者の学習相談に応じています。このように、中学校の図書室を活用して、世代を問わず学習支援を行っている事例は、都内他市町村ではありません。
所管事務	◆生涯学習に係る全体計画の立案及び推進に関すること ◆市民大学事業その他の生涯学習に係る講座、講演会等の実施に関すること ◆生涯学習に係る活動支援、団体及び関係機関との連絡及び総合調整に関すること ◆生涯学習に係る情報の集約及び市民への提供、相談業務に関すること ◆生涯学習センターの施設、設備管理並びに市民への利用提供に関すること		

2.2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業及び管理運営体制の見直しを進める必要があります。
◆市民の学習機会を充実させるため、事業の地域展開（アウトリーチ）を推進するとともに、学習情報を得られやすい環境を整備する必要があります。
◆市民の主体的な学習活動を支援するため、施設利用の促進に向けた検討が必要です。
◆施設の老朽化に対応するため、計画的に修繕を実施していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み（1～2年）	中長期的な取り組み（3～5年）
◆講座事業の整理と体系化を進めます。 ◆施設の利用促進策として学習スペースの充実などに取り組みます。 ◆デジタルデバイド事業は、地域展開の拡充に取り組みます。 ◆施設の老朽化に対応するため、施設の計画的な修繕を進めます。	◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業運営及び管理運営体制の見直しを進めます。 ◆事業のデジタル化を推進するために、これまでの事業の検証と実施方法の検討を行います。

取組状況		
	○	◆2023年2月に策定した「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業及び管理運営体制の見直しに着手しました。 ◆急激に進むデジタル化に対応するため、引き続き「なんでもスマホ相談室」を開催しました。「出張なんでもスマホ相談室」は24回実施し、地域での学習機会を創出しました。また、新たな社会的課題に対応する講座として、「ICTリテラシー講座」を開催しました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習センターの施設利用率	%	目標	-	70	70	70	70	主催事業、施設貸出等で生涯学習センターを利用した割合（新型コロナワクチン接種による利用を除く）
		実績	58	56	60		（2028年度）	
学習成果を今後、いかせると答えた人の割合	%	目標	-	71	86	88	89	講座実施後に行うアンケートの回答で得られた割合
		実績	-	85	88		（2026年度）	
市民提案型事業「まちチャレ」実施数	事業	目標	6(3)	7(3)	8(4)	-	8(4)	町田市教育プラン2019-2023、町田市生涯学習推進計画2019-2023における重点事業 ()は地域での実施数
		実績	6(3)	7(1)	7(1)		（2023年度）	

②成果指標およびその他成果の説明

◆新型コロナワクチン接種会場として施設の一部を利用したため、定期的な活動を控えた団体もいたことから、施設利用率は60%に留まりました。
◆デジタル初心者向け体験講座「なんでもスマホ相談室」等の受講者アンケート結果で、学習成果を今後活かせると答えた人の割合は88%になりました。
◆市民提案型事業「講座づくり★まちチャレ」は7事業のうち1事業を、生涯学習センターの利用が少ない若年層向け講座として実施しました。地域では「まちチャレ」1事業のほか、「出張なんでもスマホ相談室」や「小学校低学年の保護者向け講座」などを実施し、市民の学習ニーズに対応しました。
◆障がい者青年学級や市民大学の見直しに向け、生涯学習センター運営協議会等において意見を伺いながら、課題と取組の方向性を検討しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

（単位:千円）

勘定科目	2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A
行政費用 人件費	152,218	156,841	156,031	△ 810
うち時間外勤務手当	8,991	8,822	7,047	△ 1,775
物件費	41,637	56,771	58,286	1,515
うち委託料	19,984	28,489	34,040	5,551
維持補修費	958	3,209	1,077	△ 2,132
扶助費	0	0	0	0
補助費等	57,846	57,833	56,951	△ 882
減価償却費	18,507	18,109	18,109	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0
賞与・退職手当引当金繰入額	32,794	12,287	31,338	19,051
行政費用 小計 (b)	303,960	305,050	321,792	16,742
特別費用 (g)	3,761	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 3,761	302	0	△ 302

勘定科目	2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A
行政収入 地方税	0	0	0	0
保険料	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	8,892	16,662	16,417	△ 245
分担金及負担金	0	0	0	0
使用料及手数料	4,319	6,997	9,248	2,251
その他	1,835	2,020	1,827	△ 193
行政収入 小計(a)	15,046	25,679	27,492	1,813
行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 288,914	△ 279,371	△ 294,300	△ 14,929
金融収支差額 (d)	△ 2,365	△ 1,068	0	1,068
通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 291,279	△ 280,439	△ 294,300	△ 13,861
特別収入 (f)	0	302	0	△ 302
当期収支差額 (e)+(h)	△ 295,040	△ 280,137	△ 294,300	△ 14,163

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	補助費等
決算額の主な内訳	常勤職員　125,917千円 会計年度任用職員　25,184千円 再任用職員　3,636千円 会計年度任用補助職員報酬　1,294千円	町田センタービル管理費負担金　47,267千円 障がい者青年学級担当者謝礼　4,906千円 市民大学講座講師謝礼　1,576千円 さがまちコンソーシアム年会費　1,000千円　など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、810千円減少。	施設の老朽化などにより、町田センタービル管理費負担金が77千円増加。 事業内容の見直しを行ったことにより、講師謝礼が333千円減少。

勘定科目	物件費	都支出金
決算額の主な内訳	生涯学習センター光熱水費　19,834千円 生涯学習センター施設貸出・管理業務委託　14,836千円 町田第一中学校学習支援事業等業務委託　11,118千円 デジタルデバイド対応促進事業業務委託　2,147千円　など	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金　12,218千円 障がい者施策推進包括補助事業費補助金　2,871千円 家庭教育支援基盤形成事業費補助金　1,041千円 人生100年時代セカンドライフ応援事業費補助金　287千円
主な増減理由	2022年8月から開始した町田第一中学校学習支援事業が通年実施となったことにより、委託料が3,500千円増加。電気・ガス料金の激変緩和措置により、生涯学習センター光熱水費が2,531千円減少。	ことぶき大学事業の講師謝礼などの特定財源である都補助金の減少により、人生100年時代セカンドライフ応援事業費が242千円減少。

③貸借対照表

（単位:千円）

勘定科目			2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債		13,065	15,747	2,682
	不納欠損引当金		0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0		地方債	778	778	0
固定資産	事業用資産	有形固定資産	2,170,588	2,152,479	△ 18,109		賞与引当金	12,287	14,969	2,682
		土地	**1,706,823**	**1,706,823**	**0**		その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	**778,241**	**778,241**	**0**	固定負債		116,187	134,322	18,135
		建物減価償却累計額	△ 314,476	△ 332,585	△ 18,109		地方債	3,889	13,111	9,222
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	112,298	121,211	8,913
		工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
		無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		129,252	150,069	20,817
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産		2,045,581	2,006,655	△ 38,926
		土地	0	0	0					
		工作物(取得価額)	0	0	0					
		工作物減価償却累計額	0	0	0					
		無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定		0	0	0					
	その他の固定資産		**4,245**	**4,245**	**0**	純資産の部合計		2,045,581	2,006,655	△ 38,926
資産の部合計			2,174,833	2,156,724	△ 18,109	負債及び純資産の部合計		2,174,833	2,156,724	△ 18,109

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	生涯学習センター　1,706,823千円(区分所有持分100万分の254,148)	生涯学習センター　778,241千円	重要物品　1,260千円 出資金((株)町田センタービル株券)　2,985千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、18,109千円減少。	増減なし

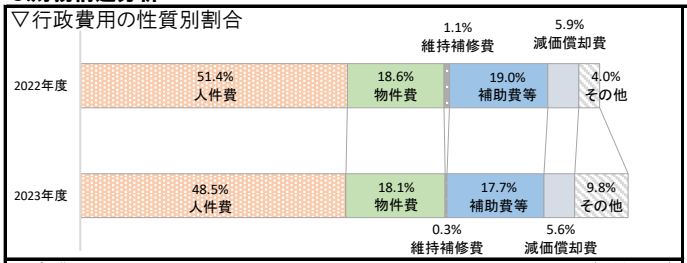
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

（単位:千円）

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	27,492	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	10,000
行政サービス活動支出	292,089	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	778
行政サービス活動収支差額(a)	△ 264,597	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	9,222
				収支差額　合計 (a)+(b)+(c)	△ 255,375
				一般財源充当調整額	255,375

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



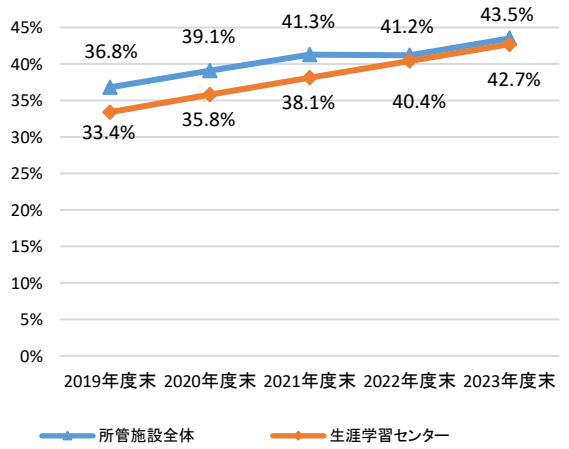
▽事業に関わる人員

（単位:人）

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
内訳	生涯学習センター管理事務	5.6		0.3	0.4		6.3	4.7
	生涯学習支援事業	2.8		0.3	0.9		4.0	3.9
	生涯学習講座事業	6.1			5.8	0.7	12.6	14.1
	施設管理	0.5		0.5	0.9		1.9	2.1
							0.0	0.0
2023年度 歳出目　合計		15.0	0.0	1.1	8.0	0.7	24.8	24.8
2022年度 歳出目　合計		14.0	1.0	1.1	7.9	0.8	24.8	

6.個別分析

▽有形固定資産減価償却率の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆生涯学習センターの施設利用は、ワクチン接種会場としての利用を継続したため目標の利用率70%には達しませんでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響が薄れ、市民の学習活動が再開されたため、利用率が2022年度の56%から60%(+4ポイント)に増加しました。また、週2回、夜間に視聴覚室を学習エリアとして開放したため、若年層の利用が増加しました。◆講座実施後に行うアンケートで「学習成果を今後、いかせると答えた人の割合」は、「出張なんでもスマホ相談室」の実施回数を増やし、様々な地域で学びの機会を拡充したことなどにより、2022年度の85%から88%(+3ポイント)に増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆2022年8月から開始した町田第一中学校特別教室の地域利用や図書室での学習支援を通年実施し、利用者が2022年度の5,386人から9,820人(+4,434人)に増加したことなどにより、委託料が2022年度の28,489千円から34,040千円(+5,551千円)に増加しました。
◆利用団体の活動が回復傾向にあることや新たな利用者が増えたことで施設利用率が2022年度の56%から60%(+4%)に増加したことなどにより、使用料及び手数料は2022年度の6,997千円から9,248千円(+2,251千円)に増加しました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、引き続き事業及び管理運営体制の見直しを進める必要があります。
◆効果的・効率的な施設運営のため、民間活力の導入範囲を拡大する必要があります。
◆市民の学習機会を充実させるため、講座のデジタル化の推進や、より多くの市民が学習情報を得やすい環境整備をする必要があります。
◆施設修繕に伴う休館について、市民が学習活動を継続できるよう、計画的に準備を進めていく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆民間活力の導入範囲拡大に向けた準備を進めます。 ◆講座のデジタル化を推進するため、効率的な実施方法を検討します。 ◆施設修繕に伴う休館中も、市内の公共施設等で講座を実施します。 ◆引き続き、障がい者青年学級と市民大学の見直しを進めます。	◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業運営及び管理運営体制の見直しを進めます。 ◆見直しを行ったものから、新たな事業運営及び管理運営体制での運用を開始します。

2023年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	スポーツ振興課

歳出目名	スポーツ振興費	特定事業名	学校施設開放事業	事業類型	1:施設運営受益者負担型

1.事業概要

事業目的	市立小中学校の校庭、体育館、夏期学校プール開放、木曽中学校夜間照明設備、中学校温水プール（町田第一中学校、南中学校、鶴川中学校）を夜間や休日など、学校の授業や部活動で使用していない時間帯を市民に開放し、市民のスポーツ活動を推進します。							
基本情報	根拠法令等	町田市立学校施設の開放に関する条例						
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	ー		
	利用料金収入　（単位:千円）	5,545	7,426	8,264	建設年月日	ー		
	受益者負担比率	9.3%	11.0%	13.0%		2021年度	2022年度	2023年度
					有形固定資産減価償却率	100.0%	100.0%	100.0%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆学校施設開放事業のうち、体育館開放については、利用者が安全・安心にスポーツに親しめるよう、備品の更新等を行う必要があります。
◆学校温水プール開放事業は、安全・安心に施設を利用できる環境を整えるとともに、利用者のニーズに沿った事業等を実施していく必要があります。併せて、施設の周知方法や効率的な活用方法等を検討していく必要があります。
◆夏期学校プール開放事業は、実施方法やスケジュール等を見直し、安全・安心にスポーツに親しめる環境を確保していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み（1～2年）	中長期的な取り組み（3～5年）
◆利用者が安全・安心にスポーツに親しむことができるよう、備品の更新や消耗品の購入等を行い、利用環境の向上に努めます。 ◆学校温水プール事業は、利用者ニーズを踏まえ、レッスン等を行います。 ◆夏期学校プール開放事業は、感染症や熱中症、また、教職員や保護者の負担を考慮し、既存の屋内公共施設を活用した事業形態に移行します。	◆学校温水プール開放事業は、関係各所と連携・協力しながら、効率的かつ効果的な運営に向けた、検討を進めます。

取組状況	○	◆体育館開放の老朽化したバレーボール支柱や温水プールのコースロープ等の備品の更新を行うことで、利用環境向上及び安全・安心なスポーツ機会の提供を図りました。 ◆夏期学校プール開放事業は、実施方法等を変更のうえ、夏期プール開放事業として、既存の屋内公共プールを活用し、事業を実施しました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標（達成時期）	成果指標の定義
学校温水プール利用者数	人	目標	-	-	-	-	-	学校温水プールの利用者数
		実績	17,648	24,734	25,846			
木曽中学校夜間照明設備利用者数	人	目標	-	-	-	-	-	木曽中学校夜間照明設備の利用者数
		実績	8,387	11,696	12,673			

②成果指標およびその他成果の説明

◆2022年度に比べ、学校温水プールの利用者数は、1,112人（+4%）、木曽中学校夜間照明設備の利用者数は、977人（+8%）増加しました。
◆学校温水プール開放事業では、利用者のニーズに沿って、無料レッスン・ワンポイントレッスンを実施しました。
◆夏期学校プール開放事業は、熱中症リスクの高まりや地域の人材不足等の課題を踏まえ、市内の各小・中学校の屋外プールを活用する実施手法から、夏期プール開放事業として、市立室内プール及び学校温水プール3校を活用する実施手法に移行しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

（単位:千円）

	勘定科目	2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A		勘定科目	2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	4,544	6,935	6,707	△ 228	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	**54,047**	**56,292**	**56,127**	**△ 165**		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	51,260	53,040	53,346	306		都支出金	0	0	0	0
	維持補修費	**0**	**2,838**	**0**	**△ 2,838**		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		**使用料及手数料**	**5,545**	**7,880**	**8,264**	**384**
	補助費等	128	158	160	2		その他	205	266	351	85
	減価償却費	0	0	0	0		行政収入 小計(a)	5,750	8,146	8,615	469
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 54,190	△ 59,427	△ 54,973	4,454
	賞与・退職手当引当金繰入額	1,221	1,350	594	△ 756		金融収支差額 (d)	0	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	59,940	67,573	63,588	△ 3,985		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 54,190	△ 59,427	△ 54,973	4,454
特別費用 (g)		144	0	0	0	特別収入 (f)		0	0	672	672
特別収支差額 (f)-(g)=(h)		△ 144	0	672	672	当期収支差額 (e)+(h)		△ 54,334	△ 59,427	△ 54,301	5,126

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	学校温水プール等総合管理業務委託　44,725千円 町田第一中学校外2校開放受付等業務委託　2,377千円 夏期プール開放事業受付及び監視業務等委託　4,040千円 など	決算額の主な内訳	学校温水プール施設使用料　7,758千円 木曽中学校夜間照明設備使用料　506千円
主な増減理由	2022年度まで所管していた、本町田後田グラウンドの管理引継ぎに伴い、光熱水費が348千円減少　など	主な増減理由	学校温水プール利用者数の増加により使用料が332千円増加。 木曽中学校夜間校庭照明設備利用者数の増加により、使用料が52千円増加。

勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	維持補修費　0千円	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	施設設備修繕の減少により、2,838千円の減少。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2023	508,478	125	△ 22	利用者数が増加したことにより、1人あたりのコストが22円減少しました。
		2022	461,052	147	△ 47	
		2021	309,568	194	△ 22	
開放1日あたりコスト	日	2023	17,894	3,554	△ 462	開放日数が増加したことにより、使用料及び手数料が増加したため、1日あたりのコストが462円減少しました。
		2022	16,824	4,016	△ 2,242	
		2021	9,578	6,258	△ 292	

④貸借対照表

（単位:千円）

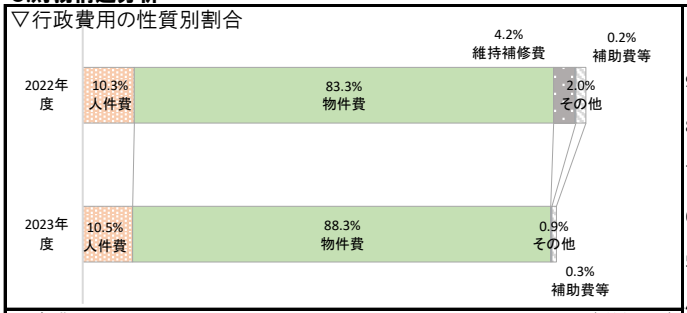
勘定科目			2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債		503	594	91
	不納欠損引当金		0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0		地方債	0	0	0
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0		賞与引当金	503	594	91
		土地	0	0	0		その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	**4,944**	**4,944**	**0**	固定負債		4,883	3,967	△ 916
		建物減価償却累計額	△ 4,944	△ 4,944	0		地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	**40,376**	**40,376**	**0**		退職手当引当金	4,883	3,967	△ 916
		工作物減価償却累計額	△ 40,376	△ 40,376	0		その他の固定負債	0	0	0
		無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		5,386	4,561	△ 825
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産		△ 5,386	△ 4,561	825
		土地	0	0	0					
		工作物(取得価額)	0	0	0					
		工作物減価償却累計額	0	0	0					
		無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定		0	0	0					
	その他の固定資産		0	0	0	純資産の部合計		△ 5,386	△ 4,561	825
資産の部合計			0	0	0	負債及び純資産の部合計		0	0	0

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	木曽中学校校庭開放管理棟　4,944千円	木曽中学校照明設備　40,376千円	特になし
主な増減理由	増減なし	増減なし	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



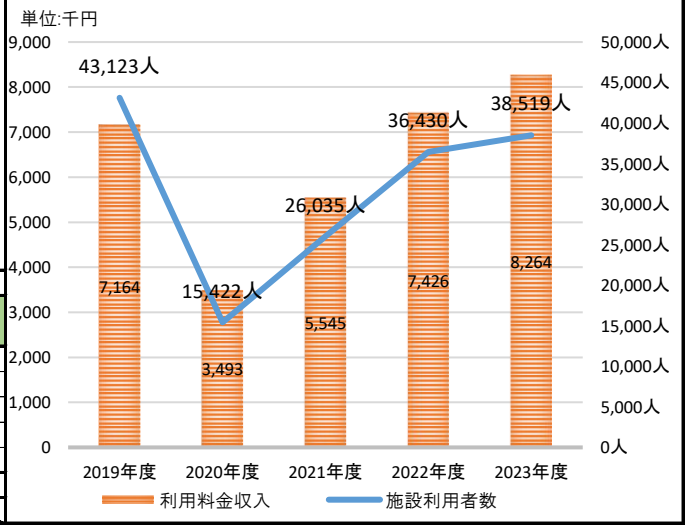
▽事業に関わる人員

（単位:人）

業務内容		常勤	再任用（フルタイム）	再任用（短時間）	会計年度（業務）	会計年度（補助）	2023 合計	2022 合計
内訳	学校施設開放事務	0.4			0.4		0.8	0.8
	夜間校庭開放事務	0.1			0.1		0.2	0.2
	学校温水プール開放事務	0.1			0.2		0.3	0.3
							0.0	0.0
							0.0	0.0
2023年度 特定事業　合計		0.6	0.0	0.0	0.7	0.0	1.3	1.3
2022年度 特定事業　合計		0.7	0.0	0.0	0.6	0.0	1.3	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆夏期学校プール開放事業は、実施方法等を変更のうえ、夏期プール開放事業として、既存の屋内公共プールを活用するかたちへ移行し、事業を実施したことにより、2022年度に比べて、委託料が306千円(+5%)増加しました。
◆学校温水プール開放事業及び夜間校庭開放事業は、利用者数が増加したことにより、2022年度に比べ、使用料及び手数料が384千円増加しました。
(学校温水プール利用者数:1,112人(+4%)増加、木曽中学校夜間校庭照明設備利用者数:977人(+8%)増加)

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆各学校の屋外プールを活用した、夏期学校プール開放事業について、熱中症リスクの高まり、また、地域の人材不足等の理由により、既存の屋内公共プールを活用する、夏期プール開放事業へ移行することで、利用者の安全を確保するとともに、各学校のプール運営にかかる維持管理経費等の縮減を図りました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆学校施設開放事業のうち、体育館開放については、利用者が安全・安心にスポーツに親しめるよう、利用環境を整備していく必要があります。
◆学校温水プール開放事業は、安全・安心に利用できる環境を整えつつ、継続的に利用者のニーズに沿った取り組みを実施していく必要があります。
◆既存の屋内公共プールを活用した、夏期プール開放事業を定着させ、安定的に運営していく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆利用者が安全・安心にスポーツに親しみ、楽しむことができるよう、継続的に備品の更新や消耗品の購入等を行い、利用環境の改善に努めます。 ◆学校温水プール事業は、利用者ニーズに沿う取組みを継続実施します。 ◆既存の屋内公共プールを活用した、夏期プール開放事業の利用者数の増加に向けた周知活動等を実施します。	◆学校教育に支障のない範囲において、市民に社会体育施設を開放することで、スポーツ活動を推進するとともに、地域コミュニティの活性化を図ります。

トピックス	シティプロモーション
公会計事業名称	広報費

部名	政策経営部	課名	広報課
目的	シティプロモーションの推進		
事業の対象	市内外の方		
根拠法令	町田市5ヵ年計画22-26、シティプロモーション基本計画22-26		

広報費の概要

◆シティプロモーションの推進に関すること
・町田市が “選ばれつづけるまち”となるために、「シティプロモーション基本計画2022-2026」の戦略に基づき、シティプロモーションを推進しています。

◆市の広報刊行物（広報まちだ・まちだガイド）の発行に関すること
・広報紙「広報まちだ」の発行、視覚障がい者用に「点字版広報」・「声の広報」を発行しています。また、市民の生活に関する情報が掲載された「まちだガイド　マップ＆インフォメーション」を発行しています。

◆ホームページの管理に関すること
・市の情報を効果的に発信できるように、町田市公式ホームページの管理、運営を行っています。

◆メール配信サービスの管理に関すること
・防災情報や子育て情報など、自分が欲しい情報のカテゴリを選んで受信できるように、メール配信サービスの管理、運営を行っています。

◆ソーシャルメディアの管理に関すること
・SNSによる効果的な情報発信ができるように、各課のソーシャルメディアの管理を行っています。

◆ラジオ広報番組の制作に関すること
・FM HOT 839（エフエムさがみ）の「東京・町田インフォメーション」を通して5分程度の番組を制作して放送しています。協定締結により、災害時が派生した際には、災害情報を最優先で放送します。

◆報道機関との連絡・調整に関すること
・市の情報を、各報道機関を通して広く周知するために、プレスリリースや記者会見を行っています。

＜広報費の取り組みに関する事業費・財源内訳＞ 単位：千円

		2021年度	2022年度	2023年度
財源内訳	町田	45,433	83,696	79,850
	東京都	17,120	4,171	3,592
	その他	40,174	4,270	4,785
事業費総額		102,627	92,137	88,227

＜シティプロモーションの取り組みに関する事業費・財源内訳＞ 単位：千円

		2021年度	2022年度	2023年度
財源内訳	町田	29,344	34,564	28,804
	東京都	13,140	0	0
	その他	0	0	0
事業費総額		16,204	34,564	28,804

※東京都市町村総合交付金まちづくり振興対策地域特選事業枠に係る市町村選定事業

＜2023年度の主な事業費＞

・シティプロモーションサイト構築・運用等業務委託料　12,193千円
・メディアへのPR業務委託料　9,900千円
・メディアタイアップ事業業務委託料　1,331千円
・YouTube番組タイアップ事業業務委託料　1,210千円
・不動産広告タイアップ記事制作業務委託料　1,899千円

＜シティプロモーションの取り組みに関する職員数＞

	2021年度	2022年度	2023年度
正規職員（人）	2.5	2.1	1.8
会計年度任用業務職員（人）	0	0	0
会計年度任用補助職員（人）	0	0	0
計	2.5	2.1	1.8

1 シティプロモーションの考え方

取組の詳細

(1)シティプロモーションとは

シティプロモーションとは、地域の魅力を広く伝え、地域のイメージを向上させるための活動で、市の魅力に関するPR活動や観光客の呼び込みのためのイベント開催等を行うものです。

(2)町田市におけるシティプロモーション

町田のシティプロモーションの目的は、まちの活力を高めることです。そのためには、町田を好きになってもらうことが重要です。

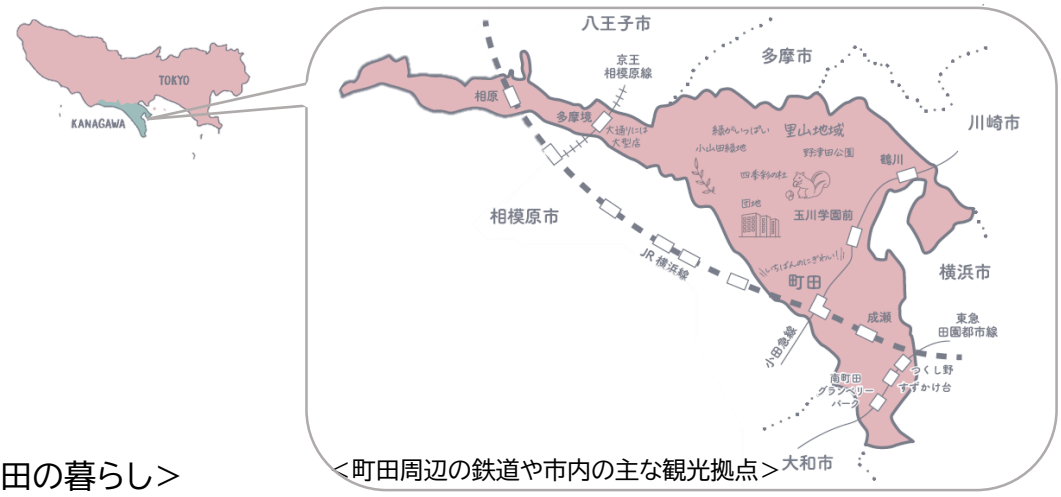
町田の魅力を発信することで、人々がイベントに参加し、関わり、好きになってもらえると考えます。

これにより、市民にとってはまちに愛着がうまれ、シビックプライドの醸成と定住につながり、市外の方にとってはまちに関心がうまれ、来訪や移住につながると考えています。

そのため、町田を好きになってもらうための施策を「町田シティプロモーション基本計画2022-2026」に基づき進めています。

なお、市のプロモーションは、人口流動の多い20代～40代をメインターゲットとして設定し、事業を実施しています。

＜ 町田シティプロモーション基本計画22-26」に定めた三つの戦略＞
①「町田の魅力をみんなで発信」②「町田の暮らしへの共感獲得」③「一人ひとりが広報担当」

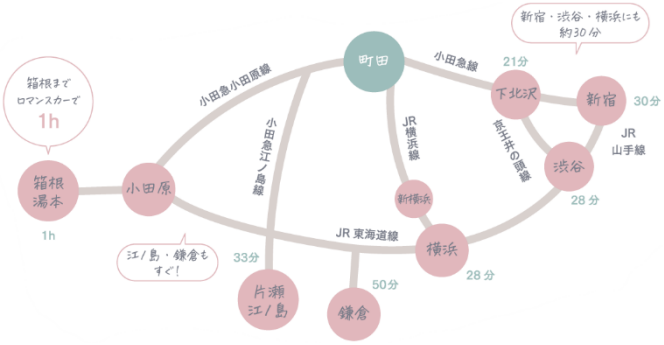


＜町田周辺の鉄道や市内の主な観光拠点＞

＜町田の暮らし＞

町田の魅力のひとつとしてあげられるのは、新宿・横浜に電車で約30分、江ノ島や箱根などの観光地にも近く、都市と自然が共存している地理的利点にあります。

この地理的利点を生かし、仕事でも遊びでも、自分らしくいられる場所や時間が持てる、町田ならではの「暮らし」ができることを、町田の一番の魅力ととらえ、プロモーションを行っています。



2 町田の魅力をみんなで発信

市内外の方が、町田の魅力をSNS等で気軽に発信・発見できる機会を創出し、「まちの魅力」を発信する意欲を高める仕掛けづくりをしています。

また、行政・団体・事業者の連携を強化し、「まちの情報」を市内外に広く発信しています。

取組の詳細

(1)市内外の方が町田の魅力を自ら発信・発見できる場の提供

＜「ポケふた」(※1)を活用した魅力発信＞

ポケモン(Pokémon)に関心が高い層を対象に、2021年度に「ポケふた」に関するSNSの投稿を募集するキャンペーンを実施しました。

集まった投稿は、つるの剛士さん、キン・シオタニさんがゲストのオンラインベント「ポケふたのあるまち。まちだってどんなまちだ？」のYouTubeLive内で紹介しました。

＜オンラインイベントのサムネイル＞

＜ハッシュタグキャンペーンサイト＞

(※1)「ポケふた」:ポケモンがデザインされたマンホール蓋のことで、㈱ポケモンが各地の来訪促進を目的に自治体に寄贈しています。
町田市では、2020年8月21日、芹ヶ谷公園に6枚の「ポケふた」設置が実現しており、可愛らしいポケモンたちと町田市をイメージしたデザインが描かれています。

＜ポケふた＞

指標	実績
集まった投稿数	128件(内:Twitter 91件 Instagram 37件)
オンライン番組視聴回数	795回
アーカイブ動画再生数	500,000回
意識変容(※2)	91.7%

＜ハッシュタグキャンペーンで集まった投稿＞

(※2)意識変容:アンケート回答で「町田市のことが好きになった」「町田市のことを人におすすめしたくなった」「町田市を訪れたい気持ちになった」等、意識変容のあった回答の割合

取組の詳細

＜インフルエンサーを活用したSNS投稿＞

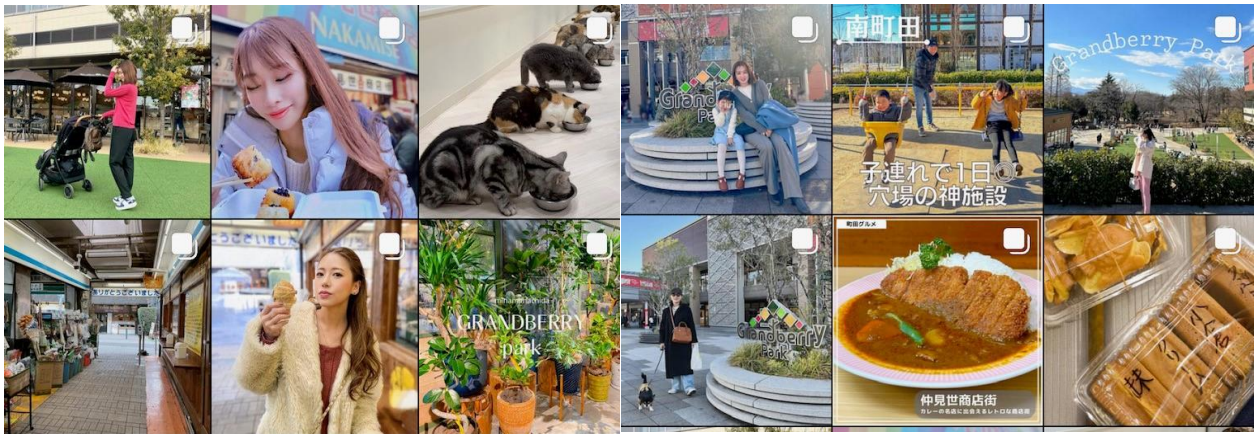
100名のインフルエンサーが、町田市内の各エリア（西園、鶴川、南町田、仲見世商店街）を実際に訪問し、その魅力をInstagram（リール動画（※3）を含む）で投稿しました。

普段から町田市近隣の情報について発信しているインフルエンサーに発信をお願いしました。インフルエンサーが投稿したポスト（※4）は、まちだシティプロモーション公式アカウントのプロフィール欄にも表示されます。

行政とは異なった視点で発信することで、より多くの方が様々な町田の魅力を発見することができます。

【参考】町田市公式Instagramアカウント
URL：https://www.instagram.com/machida_cp/

指標	実績
総フォロワー数	2,194,553人
インプレッション数（※5）	284,294回
保存数（※6）	1,702件



まちだシティプロモーション公式アカウントから閲覧可能なインフルエンサーの投稿

（※3）リール動画　　：最大90秒の短い縦型の動画
（※4）ポスト　　：Instagramに投稿する静止画や動画
（※5）インプレッション数：投稿が他のユーザーに表示された合計回数
（※6）保存数　　：ユーザーが後で見返せるように投稿を保存した回数

（2）市内団体の情報発信の支援

町田市文化・国際交流財団、町田市観光コンベンション協会、町田商工会議所、町田市社会福祉協議会、市内学校法人などの、市内の団体が実施している事業について、市が情報発信の場を提供するなどの支援を行っています。

＜市内関係団体による記者会見＞

月2回行っている市長の記者会見終了後に、市内団体の方が直接、町田市を担当する新聞社やテレビ局などに対して会見を行う場を提供しています。直接記者に事業説明を行うことで、それぞれの団体の活動がメディアに取り上げられやすくなり、市の魅力発信につなげることができます。

＜市内団体の記者会見の様子＞

取組の詳細

＜FAXリリース＞

記者会見とタイミングがあわない場合、適宜、FAXでプレスリリースを行っています。

＜Webリリース＞

インターネットサービスを利用したプレスリリースで、市外への情報発信が効果的な場合に、記者会見やFAXリリースとあわせて実施しています。

インターネット上に直接記事を掲載できるほか、Yahoo!Newsなどのインターネットニュースに掲載されることで、より多くの方に情報を届けることができます。

	2021年度	2022年度	2023年度
記者会見・FAXリリース、Webリリースの数	―	18回	24回
メディア掲載数	―	53本	52本
広告換算費（※7）	―	81,408千円	73,257千円

（※7）広告換算費：メディアへのPRの成果指標で、メディアで取り上げられた記事やニュースが、広告として出稿された場合の費用を計算したもの。
これにより、メディア露出の価値を金額で評価することができる。

（3）市民の方の情報発信を支援するためのイベントの開催

市民の方の情報発信を支援するため、情報発信する際のコツや注意点を学ぶことができるイベントを実施しました。

取組の詳細

①トークイベント「情報発信の始めの一歩」
日時：2023年12月2日（土）10：30～11：30
場所：市庁舎2階おうえんルーム
講師：ゲスト長谷川ミラさん（モデル）
参加者：53名

②情報発信ワークショップ「情報発信の、きほん」
日時：2024年1月14日（日）13：30～15：00
場所：市庁舎2階おうえんルーム
講師：株式会社ポニーキャニオン　村多正俊氏
参加者：22名

③情報発信ワークショップ「情報発信の、実践」
日時：2024年2月18日（日）13：30～15：30
場所：武相荘　能ヶ谷ラウンジ
講師：佐賀県 文化・観光局 文化課 楢崎 政彦氏
参加者：12名

イベント実施後のアンケートでは、**「習った内容を実践したくなった」の回答が80%以上**という結果になりました。

3 「町田の暮らし」への共感獲得

市民には、町田の魅力を再発見し、誇りに思ってもらい、市外の方には、町田を知ってもらうため、町田の中でも注目されているコンテンツである「FC町田ゼルビア」、「薬師池公園　四季彩の杜」、「南町田グランベリーパーク」、「ポケふた」などのメディア露出を進めています。 また、注目されているコンテンツ以外にも、町田で自分らしく生活し、暮らしを楽しんでいる様子を紹介しています。

(1)注目コンテンツの発信

＜メディアへのPR＞

テレビ（首都圏キー局）、プリント（新聞5大紙・雑誌等）、WEBメディア等で広く町田の注目コンテンツを取り上げてもらえるように、市が積極的に各メディアへ情報を売り込みます。

町田市が伝えたい情報と相性のいいメディアに対して適切なタイミングで注目コンテンツ等の情報提供を行っています。

取組の詳細

年度別のメディア露出実績			
メディアカテゴリ	2021年度	2022年度	2023年度
TV	11番組	9番組	6番組
紙媒体（新聞・雑誌）	5媒体	5媒体	2媒体
WEB	212サイト	223サイト	139サイト
広告換算費 計	928,677千円	540,923千円	909,250千円

ヒルナンデスでの放送@南町田
（メディアへの売り込みの結果、TVでの露出につながった事例）

取組の詳細

＜メディアとのタイアップ事業＞

主に20代～40代が利用しているメディアと一緒に番組や記事を製作し、町田の暮らしの魅力を発信しています。

市が製作段階から企画に携わることで、より積極的にPRすることが可能です。

＜テレビ＞

フジテレビ系 旅バラエティ番組「なりゆき街道旅」

実績：広告換算費 295,573千円円

＜WEB記事＞

WEBおでかけメディア「「Hanako.tokyo」

お散歩がてら“おいしい”を満喫！

東京・町田のレトロなグルメスポット5選

実績：記事閲覧数 104,204回

【参考】Hanako「お散歩がてら“おいしい”を満喫！
東京・町田のレトロなグルメスポット5選」
URL：https://hanako.tokyo/food/368209/

＜YouTube＞

町田在住のお笑い芸人佐藤満春さんの

YouTube番組「サトミツちゃんねる」

佐藤満春の町田探訪

実績：再生回数 約90,000回

【参考】YouTube 佐藤満春の町田探訪
URL：https://youtube.com/playlist?list=PLep0JhpW4W96s84EHDo2V90bubAsjlDkI&si=Z3lWeddxlbd8kD9n

（2）「町田の暮らし」をPRするコンテンツの制作

町田の魅力である「暮らし」は、「好きな場所に住んで、好きなことに打ち込むことができる」ことでもあります。「町田は好きな自分であり続けることができるまち」ということをPRするため、キャッチフレーズを「まちだで好きを続ける」とし、様々なコンテンツを制作しています。

＜PR冊子「まちだで好きを続ける」の制作＞

町田の公園紹介や団地カルチャー、農産物等の紹介を中心としたPR冊子を2022年度に19,000部制作しました。

シティプロモーションのメインターゲットである20代～40代の方に人気のある場所を事前にリサーチし、映画館に11,000部、美容院に400部、大学・専門学校へ1,200部、市関連施設に2,500部配布しました。

＜PR冊子「まちだで好きを続ける」＞

取組の詳細

【参考】PR冊子「まちだで好きを続ける」
URL：https://keeponloving-machida.com/documents/machidalifestyleplus.pdf

DIYを通じて、
自分だけの秘密基地が完成

前の住人の方が施した扉の彫刻など、至る所にDIYの痕跡が残るワンルームに住む間瀬さん。彼女は東京造形大学の油絵学部に通う大学生。「ここに住むまでDIYとは無縁だったけれど、大家さんが脚立やペンキなどを貸してくれるので、挑戦することに。実際、自分で手を加えてみたら、より自分の部屋が好きになりました。古着やレコードなど、好きなものはしまわず、あえて見せる収納を。大学の勉強や作品のコンセプトを考えるのに疲れたら、ハンモックに揺られながら大好きな読書をしたり、クラシックを聴いています♪ときには都心に行くことはあるけれど、基本的にずっと町田市内にいる私(笑)。特に相原は大学が近く、通学時間を気にせずに作品制作に没頭できるし、静かで住みやすいので、大学卒業後も住みたいと思っています」(間瀬さん)

間瀬夕菜さん
(20歳・大学2年)

Profile
町田在住歴：1年
町田に住んだ理由：大学が近いため。
町田の魅力：一番は静かで穏やかなところ。住宅街や緑あふれる街並み、交通的な教育施設があるところなど。

ユニットバスの扉には、自分でペンキを使って絵を描いたそう。間瀬さんいわく、「扉りは硬いのに中身は柔らかい……。そんなアンバランスな生き物が好き！なかでもお気に入りのタカアシガニを描いた」とか。浴室内は自身でビビッドな赤に塗り替えた壁と星や鳥のオブジェなどが効いてキュートな空間に。

学生生活
集中できる

＜PR冊子「まちだで好きを続ける」 美大の二年生 間瀬さんインタビューページ＞

取組の詳細

＜シティプロモーションサイト「まちだで好きを続ける」の制作・運用＞

町田の魅力を周知するため、暮らしを楽しむ人へのインタビューを「くらす」「はたらく」「たのしむ」の3カテゴリで掲載するサイトを2023年度に制作しました。シティプロモーションのターゲット層である20～40代の方に合わせたサイトのデザインや記事のカテゴリ等を検討し、公開しています。

【参考】シティプロモーションサイト「まちだで好きを続ける」
URL:https://keeponloving-machida.com/

指標	実績
制作記事数	24記事
閲覧数	115,000回
年間利用者数	10,000人
サイトを見て町田市を好きになった方(※8)	97.3%

(※8)シティプロモーションサイトについてのアンケートに回答した163名のうち「サイトを見る前よりも町田市に興味や好感を持った」と回答した人の割合

＜「町田の暮らし」のPRの成果＞

・2023年 (株)at home「注目の駅ランキング」
(賃貸部門) 町田駅が第1位

・2022年 (株)ARUHI「本当に住みやすい町大賞」
町田市多摩境駅が第3位

4　一人ひとりが広報担当

取組の詳細

職員一人ひとりが、情報発信の効果的な内容やタイミング、ターゲットに適したメディアを選択する知識やスキルを高め、市内外の人が知りたい時に知りたい情報を得られるよう、行政全体の広報力向上に向けた取り組みを行っています。

(1)市職員向け研修の実施

効果的なお知らせ文(案内文書等)の作り方や、情報の受け手である市民の目線に立った情報の伝え方について、2022年度から研修を実施しています。

2年間で11個のテーマで研修を実施し、計550名の職員が受講し、市内外の方に向けた適切な情報発信方法を学んでいます。

＜実施した研修の例＞

・「思わずメディアが取材したくなる！伝わる広報研修」
プレスリリースの効果的な書き方や、発信するタイミング等について、事例を通して学びました。
受講人数:148名

・「町田市職員のためのSNS広報研修」
「SNSとは何か」「ツールごとの特徴やできる工夫」
「リスク管理」等について学びました。
受講人数:97名

・「SNS投稿にも役立つ！チラシデザイン講座」
チラシを作成する上での基本的な考え方やポイント、コンセプト立案、レイアウトデザインなどのチラシ作成の基礎や、具体的な作成スキルを学びました。
受講人数:26名

＜受講後に職員が業務で作成したチラシ＞

研修後のアンケートでは、全ての研修で
「習った内容を実践してみたくなった」と回答した人が90%を超える結果となりました。

（2）報道メディアに対する情報提供活動

市政情報や事業について、記者会見、FAXリリース、Webリリースを行い、市内外への効果的な情報発信を目指しています。

研修等により、職員一人ひとりが、情報発信の効果的な内容やタイミングやターゲットに適したメディアを選択する知識やスキル等の広報力を向上させたことにより、
メディアへの掲載本数及び広告換算費が増加しています。

情報提供活動等	2021年度	2022年度	2023年度
記者会見、FAXリリース、Webリリースの数	374回	392回	325回
メディア掲載数	244本	442本	434本
広告換算費	293,195千円	566,779千円	871,110千円

取組の詳細

＜記者会見の様子＞

成果

＜町田に対して愛着や親しみを感じる市民＞

	2021年度	2022年度	2023年度
目標値(%)	—	88.1	88.7
実績値(%)	—	85.7	84.8

＜シティプロモーションによる広告換算費＞（再掲）

広告換算費		2021年度	2022年度	2023年度
広告換算費（千円）	目標値	300,000	426,000	447,000
	実績値合計	1,221,872	1,107,702	1,780,360
	メディアへのPR実績値	928,677	540,923	909,250
	パブリシティ実績値	293,195	566,779	871,110

＜メディアへのPR実績値内訳＞（再掲）

メディアカテゴリ	2021年度	2022年度	2023年度
TV	11番組	9番組	6番組
紙媒体(新聞・雑誌)	5媒体	5媒体	2媒体
WEB	212サイト	223サイト	139サイト
広告換算費 合計	928,677千円	540,923千円	909,250千円

論点

議論のポイント①

シティプロモーションすべき町田の魅力について

評価人チームが考える問題点①

・「誰に対して」「何を」「どんな媒体で」伝えると効果的かを分析したうえでプロモーションのターゲットごとに発信する必要があるのではないか。

・SNSを活用してプロモーションを行う場合は、もともと町田のことを発信しているアカウントと連携する必要があるのではないか。

・シティプロモーションを推進していくにあたっては、民間企業や商店街、市民と連携して盛り上げていく必要があるのではないか。

・成果指標として、「まちへの愛着」が設定されているが、在住年数など、対象者によって回答が大きく変わることが想定されるため、調査対象者や比較方法等を検討する必要があるのではないか。

議論のポイント②

ターゲット別の推進方法について

評価人チームが考える問題点②

・市民・市外の方、世代ごとなど、それぞれ魅力に感じる情報や届きやすい媒体は異なるため、それらをきちんと検討する必要があるのではないか。

・市の魅力のカテゴリごとに伝えたい相手が異なると思うので、それを意識して発信する必要があるのではないか。

メモ

2023年度 課別行政評価シート

部名	政策経営部	課名	広報課	歳出目名	広報費
				事業類型	c:その他型

1.組織概要

組織の使命	市とお客さまとの接点・橋渡し役となります。 市民が市政に興味を持ち、参加したくなる広報活動を目指します。 市民の町田への愛着・誇りの向上、市外からの町田への関心・憧れの醸成を図ります。	他自治体の取り組み等	◆記者会見の頻度（町田市は年20回程度の開催。多摩26市では、おおむね年1回～4回程度） ◆2023年度記者会見及びプレスリリースによる情報提供の件数（町田市は、年357件。八王子市では、年251件。その他の近隣自治体は、おおむね年80～120件程度）
所管事務	◆市の広報刊行物（広報まちだ・まちだガイド）の発行に関すること ◆ホームページの管理に関すること ◆メール配信サービスの管理に関すること　◆ソーシャルメディアの管理に関すること ◆ラジオ広報番組の制作に関すること　◆報道機関との連絡・調整に関すること ◆シティプロモーションの推進に関すること		

2.2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆市民ニーズに合わせた的確で効果的な広報活動が課題となります。◆町田の暮らしへの共感を獲得するために、「町田市を訪れたら、住んだら、どのようなことが実現できるのか」を具体的にイメージできるように、町田の暮らしを楽しむヒトや、町田ならではのモノ、コトを情報発信する必要があります。◆町田に関わる誰もが、市の魅力を自ら情報発信する機運を高める取り組みをする必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み（1～2年）	中長期的な取り組み（3～5年）
◆町田ならではのライフスタイルを発信し、市に対する共感を醸成します。◆まちだ〇ごと大作戦で実施してきた市民自らがいきいきと活動しながら暮らし、活力あふれる様子を市内外に発信する取組を促進していきます。	◆市民の「愛着」「誇り」、市外の人からは「関心」「憧れ」を持ってもらうことで市内外から選ばれ続けるまちを実現するために、町田の魅力を発信していきます。

取組状況		
	◎	◆市役所内の組織だけではなく、市内関係団体との連携も強化し、報道機関への積極的かつ効果的な情報発信に取り組みました。 ◆ターゲット層に合わせた媒体を複数活用してメディアプロモートを展開しました。 ◆シティプロモーションサイトを開設し、町田に関わる人々のインタビューを通して、町田の魅力や、町田ならではのライフスタイルを発信しました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
市民満足度	%	目標	-	70.0	-	-	72.0	「広報活動」に関する意識調査での「市の情報提供方法の満足度」。次回は2025年度に実施予定。
		実績	-	68.2	-		(2025年度)	
広告換算費	千円	目標	300,000	426,000	447,000	489,000	510,000	記者会見やメディアプロモート等の活動により、新聞等に記事掲載・TV放映された露出効果を、広告料金をベースに算出。
		実績	1,221,872	1,107,702	1,780,360		(2026年度)	
		目標						
		実績						

②成果指標およびその他成果の説明

◆市民満足度の向上を目指し、市内のイベントへの出展及びチラシ配布等により市の情報ツールや広報まちだの戸別配布制度の周知活動を積極的に行いました。◆職員や市内関係団体職員を対象とした広報力向上研修の充実を図るなど、より効果的な情報発信に向けて取り組んだ結果、広告換算費は目標を大きく上回る結果となりました。◆メディアプロモートでは、市内の観光資源だけではなく「バイオエネルギーセンター」「里山保全」など、町田の施策についても広くPRすることができました。◆新たに開設したシティプロモーションサイトは、年間11万以上のPVを獲得し、5万人以上の方に閲覧いただきました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

（単位:千円）

勘定科目		2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A	勘定科目		2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A
行政費用	**人件費**	**139,746**	**113,747**	**102,254**	**△ 11,493**	行政収入	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	6,229	3,387	3,691	304		保険料	0	0	0	0
	物件費	**83,337**	**91,938**	**88,118**	**△ 3,820**		**国庫支出金**	**2,657**	**2,790**	**2,404**	**△ 386**
	うち委託料	81,929	90,282	85,558	△ 4,724		都支出金	14,463	13,244	12,169	△ 1,075
	維持補修費	0	0	0	0		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	19,290	199	176	△ 23		**その他**	**40,174**	**4,070**	**4,585**	**515**
	減価償却費	219	219	219	0		行政収入 小計(a)	57,294	20,104	19,158	△ 946
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)		△ 202,577	△ 196,073	△ 181,830	14,243
	賞与・退職手当引当金繰入額	17,279	10,074	10,221	147	金融収支差額 (d)		0	200	200	0
行政費用 小計 (b)		259,871	216,177	200,988	△ 15,189	通常収支差額 (c)+(d)=(e)		△ 202,577	△ 195,873	△ 181,630	14,243
特別費用 (g)		3,636	0	0	0	特別収入 (f)		0	10,454	4,151	△ 6,303
特別収支差額 (f)-(g)=(h)		△ 3,636	10,454	4,151	△ 6,303	当期収支差額 (e)+(h)		△ 206,213	△ 185,419	△ 177,479	7,940

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	人件費　102,254千円	広告収入（広報まちだ）　3,600千円 広告収入（ホームページバナー）　865千円 広告収入（まちだガイド）　120千円
主な増減理由	人事異動に伴う職員構成の変動のため11,493千円減少。	ホームページバナーの広告申し込み件数が増えたため435千円増加、まちだガイドの広告申し込み件数が増えたため80千円増加。

勘定科目	物件費	国庫支出金
決算額の主な内訳	「広報まちだ」企画・編集支援・印刷業務委託　28,567千円 広報まちだ等配布委託　13,524千円 町田市シティプロモーションサイト構築・運用等業務委託12,193千円 町田市メディアプロモート業務委託　9,900千円　など	地域生活支援事業費等補助金及び障害者総合支援事業費補助金 2,395千円など
主な増減理由	「広報活動」に関する意識調査（概ね4年に1回実施予定・前回は2022年度実施）の差額等により3,820千円減少。	点字版「広報まちだ」の作成ページ数減少により386千円減少。

③貸借対照表

（単位:千円）

勘定科目			2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債		10,074	10,221	147
	不納欠損引当金		0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0		地方債	0	0	0
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0		賞与引当金	10,074	10,221	147
		土地	0	0	0		その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	0	0	0	固定負債		96,946	87,418	△ 9,528
		建物減価償却累計額	0	0	0		地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	96,946	87,418	△ 9,528
		工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
		無形固定資産	**1,096**	**877**	**△ 219**	負債の部合計		107,020	97,639	△ 9,381
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産		△ 85,924	△ 76,762	9,162
		土地	0	0	0					
		工作物(取得価額)	0	0	0					
		工作物減価償却累計額	0	0	0					
		無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定		0	0	0					
	その他の固定資産		20,000	20,000	0	純資産の部合計		△ 85,924	△ 76,762	9,162
資産の部合計			21,096	20,877	△ 219	負債及び純資産の部合計		21,096	20,877	△ 219

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	無形固定資産(事業用資産)		
決算額の主な内訳	「いいことふくらむまちだ」ロゴマーク商標権 877千円	特になし	特になし
主な増減理由	減価償却により、219千円減少。		

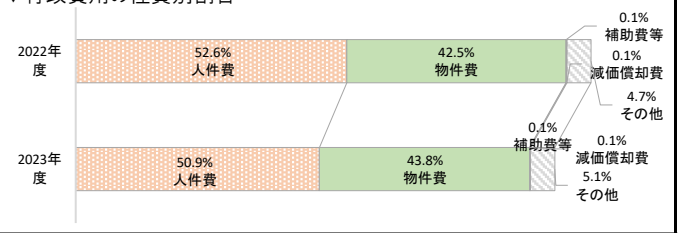
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

（単位:千円）

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	19,358	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	205,999	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 186,641	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額　合計 (a)+(b)+(c)	△ 186,641
				一般財源充当調整額	186,641

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

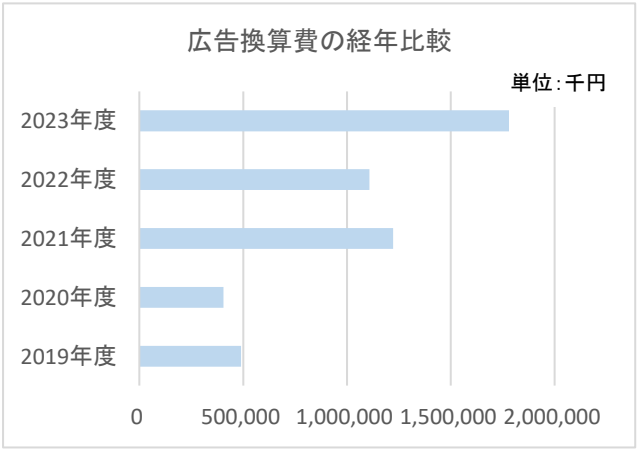


▽事業に関わる人員

（単位:人）

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
内訳	広報課管理事務	3.2			0.5		3.7	4.1
	広報紙・誌発行事業	4.8			3.4		8.2	7.6
	情報提供(パブリシティ)事業	1.2			0.2		1.4	1.5
	シティプロモーション事業	1.8					1.8	2.1
							0.0	0.0
2023年度 歳出目　合計		11.0	0.0	0.0	4.1	0.0	15.1	15.3
2022年度 歳出目　合計		11.1	0.0	0.0	4.2	0.0	15.3	

6.個別分析



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆積極的に情報発信を行うだけではなく、広報力向上研修を通し、発信の質を高めたことで、多くの媒体で取り上げられ、町田への関心を高めることができました。また、17億円を超える広告換算費を達成し、町田の魅力的な情報を多く掲載することができました。
◆シティプロモーションサイトは、町田の魅力や町田ならではのライフスタイルを発信することで、目標以上のPV数等を達成しました。また、最も多く閲覧している世代が25～34歳、次が35～44歳と、ターゲット層に即したプロモーションが実施できました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆広報力向上研修を4回実施し、173人が受講しました。多くの受講者が研修内容を実践したことで、質の高い情報発信や発信業務の効率化につながりました。
◆メディアプロモートについて、テレビへのアプローチに長けた専門事業者に委託をしたことで、5番組への露出を獲得し、町田の魅力を広く発信できました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆市の取り組みをより多くのメディアで取り上げてもらう必要があります。
◆シティプロモーションサイトの閲覧により、多くの方に町田の魅力を知っていただけました。引き続き「ヒト」に焦点をあて、「モノ」・「コト」を含む魅力ある記事を掲載し、シティプロモーションサイトの訪問者数を増やす必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆市組織全体のさらなる広報力向上を目指して研修を実施するとともに、庁内各課の広報活動の積極的な支援を行います。 ◆シティプロモーションサイトの定期的な更新及びコンテンツの充実に取り組みます。	◆市民の「愛着」「誇り」、市外の人からは「関心」「憧れ」を持ってもらうことで市内外から選ばれ続けるまちを実現するために、町田の魅力を発信していきます。

第2会場アンケート回答用QRコード

事業評価中に、1事業につき1回（設問数は計6問）、インターネットアンケートを実施します。ご自身のスマートフォン等を使ってご参加ください。

なお、スマートフォン等の電子端末をお持ちでない方は、お近くのスタッフにお声がけください。

回答は
こちらから